

2022年度 前期 市民開放授業 募集案内

市民開放授業は、新型コロナウイルスの影響により 2020～2021 年度は中止しました。

2022 年度は新型コロナウイルス感染症状況下での初めての実施になります。感染防止対策の徹底等により小規模開催になりますがご了承ください。

また、今回は前期の授業のみの募集になりますのでお気をつけください。

後期の実施については、前期の状況を確認し判断します。

【訂正 3/2】 教育学部の授業開始日を4/8（金）から4/7（木）に訂正いたしました。申し訳ございません。（1ページ）

目 次

I 実施形態	1
II 受講手続	2
III 受講に際して	3
IV 「市民開放授業一覧」について	5
市民開放授業一覧	7
◎ 前期開講授業	
・松本キャンパス	
全学教育機構	
人文学部	
経法学部	
・長野（教育）キャンパス	
教育学部	
交通のご案内	8
シラバス（授業内容の紹介）	10

信州大学では、正規の学生のために開講している通常の授業を可能な限り開放し、学生と一緒に受講したいと思う一般市民（高校生を含みます）の方々を受講生として募集します。

これは、信州大学が行う大学開放活動の一環で、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、本学と地域社会の連携をより一層深めていくことを目的としたものです。

受講するにあたっては、事前に応募していただく必要があります。本学の学生や教職員とキャンパス・ライフをお楽しみください。

I 実施形態

■ 開講期間及び授業時間

- 前期開講授業 2022年4月から2022年7月まで
※休業日・振替授業日等があります。必ず学年暦（受講決定者に後日送付）をご確認ください。

- 授業開始日

学部等	授業開始日
	前期
全学教育機構	4月8日（金）
人文学部	
経法学部	
教育学部	4月7日（木）

【訂正 3/2】 教育学部の授業開始日を4/8（金）から4/7（木）に訂正いたしました。申し訳ございません。

- 授業時間

※新型コロナウイルス感染症の影響で、午後の授業時間を30分繰り下げて実施しています。

時限	1	2	3	4	5	6
時間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	13:30～ 15:00	15:10～ 16:40	16:50～ 18:20	18:30～ 20:00

- 授業時間【教育学部】

※2019年度より教育学部のみ100分授業に変更になりました。

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:40～ 10:20	10:30～ 12:10	13:00～ 14:40	14:50～ 16:30	16:40～ 18:20	18:30～ 20:10

■ 開放授業，受講学部，講義室，募集人数等

「市民開放授業一覧」のとおりです。（7ページ以降を参照）

Ⅱ 受講手続

■ 受講手続の流れ

以前までの受講手続と方法が異なりますので、ご注意ください。
試験期間は設けませんので、シラバス（授業内容の紹介 10 ページ～）を参考にし、以下のとおり応募期限までにハガキで応募してください。

① 応募方法

ハガキ裏面に①郵便番号と住所 ②氏名 ③電話番号 ④「2022年度市民開放授業 希望科目」を明記の上、「信州大学 学務部学務課教務グループ」（〒390-8621 松本市旭 3-1-1）宛にお送りください。ハガキ以外による受付はしません。

- ・ 1科目につき、一人1通にしてください。
- ・ ハガキ1枚につき、記入する科目は1科目にしてください。
- ・ 1科目につき複数の応募や必要事項の記載がないハガキは、無効となる場合があります。

応募期限 2022年3月18日（金）（必着）

② 受講者の決定

応募多数の科目の場合は抽選で受講者を決定し、結果は応募者全員に3月31日（木）までに郵送でご連絡します。

③ 受講料納付・受講登録

受講決定者は、4月8日（金）～4月21日（木）までに各キャンパスの受講窓口で、受講料を納付し受講登録してください。

- ・ 受講料の納付は、受講するキャンパスごとになります。
- ・ 受講登録時に必要な書類等は、受講決定者へ郵送でお送りしますので、詳細はそちらをご確認ください。

【主な受講登録時に必要な書類等】

- ・ 市民開放授業受講届
- ・ 受講料（※）1授業 9,400円
- ・ 運転免許証、保険証、パスポート等の身分を証明できる書類
- ・ 受講証用写真（縦4cm×横3cm）1枚（6ヶ月以内撮影）

※ 授業によって受講料が異なる場合がありますので、「市民開放授業一覧」の「備考」欄をご覧ください。また、受講料以外に授業で使用するテキスト代、及び授業に係るその他の費用は、受講生のご負担となります。

なお、いったん納入された受講料は、返還できませんのでご了承ください。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響で、本学の都合で中止にする場合はご返金します。

受講料は、本学の運営費用にあてられます。

④ 受講証の交付

受講料を納付された方に正式な受講証をお渡しします。来学の際は携帯するようお願いいたします。

各期において複数の授業を受講する場合でも、受講証は1枚のみの発行となります。

■ 受講窓口

下記の各キャンパス受講窓口(☆)で受講料の納付・受講登録をしてください。

<登録受付時間> 8:30~17:00 (土日、祝祭日を除く)

不明な点は総合窓口までお問い合わせください。

◎ 松本キャンパス 〒390-8621 松本市旭3-1-1

☆市民開放授業 総合窓口 TEL: 0263-37-2870

(全学教育機構1F 学務部学務課教務グループ)

※ なお、授業に関してのお問い合わせは、下記各学部等の窓口へ

全学教育機構 学務部学務課 共通教育支援室 TEL: 0263-37-2978

人文学部 学務係 TEL: 0263-37-2255

経法学部 学務グループ TEL: 0263-37-3318

◎ 長野(教育)キャンパス 〒380-8544 長野市西長野6のロ

☆教育学部 学務グループ TEL: 026-238-4057

■ 事前説明会は開催しません。

Ⅲ 受講に際して

■ 新型コロナウイルス等感染症対応のお願い

- ・ マスクの着用をお願いします。
- ・ 手洗い、うがいの励行をお願いします。
- ・ 消毒用アルコールが各教室等にありますので、ご利用ください。
- ・ 身体的距離の確保をお願いします。
- ・ 体調の悪い方、発熱されている方は、出席をご遠慮いただきますようお願いいたします。
- ・ 基礎疾患等のある方は、慎重なご判断をお願いします。

- ・ 感染状況により、予定の変更や中止となる場合がありますのでご了承ください。中止の場合にはご返金します。

- 試験、修了証について
 - ・ 受講のための検定試験はありませんので、授業内容や難易度をご確認のうえお申し込みください。
 - ・ 市民開放授業の受講生に、単位認定は行いません。
 - ・ 受講を証明する修了証を希望される方は、出席日を記入した「受講修了証発行願」（受講決定者に後日送付）を学期終了時に受講窓口に提出してください。修了証の発行には、原則として試験期間を除く授業日の2/3以上の出席が必要となります。
 - ・ 受講生は原則として定期試験を受ける必要はありません。
 - ・ 単位認定を希望される場合は、「科目等履修生」の制度がありますので、料金その他詳細に関しては、各学部の学務担当係までお問い合わせください。

- 図書館の利用

新型コロナウイルス感染症の影響で、図書館の利用について検討中のため、結果は受講決定者に後日お知らせします。

- 信州大学生生活協同組合の利用

信州大学生生活協同組合に加入し、本の割引等のサービスを受けることができます。加入には出資金が必要ですが、脱退時には全額返還されます。

- 受講生の呼び出し等

授業中その他受講生の呼び出しには対応できかねます。また、授業中は携帯電話等の電源をお切りください。

- 受講の停止

受講にあたっては本学が行う教育及び研究に支障が及ぶことがないように努めてください。また、授業担当教員の指示には従ってください。指示に従わなかったり、受講生としてふさわしくないと判断された場合、受講を停止することがあります。なお、受講停止の場合であっても、既納の受講料は返還できません。

- 損害賠償

本学の施設、設備等を破損したときは、届け出てください。その損害を賠償していただくことがあります。

- 授業の撮影等

授業担当教員の許可のある場合を除いて、授業の板書や投影される資料等を撮影したり、授業の内容の録音・録画はしないようにしてください。また、著作権侵害に相当する場合がありますので、授業の情報を SNS 等に投稿するのはお控えください。

■ 通学方法等

各キャンパス（伊那キャンパスを除く）には駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。これに違反したトラブルや事故が起きた場合、大学側では責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 休講情報等

休講，補講，教室変更等の連絡はキャンパス情報システム・公用掲示板によって行います。緊急の場合等ではできる限り電話等によりお知らせいたしますが，ご連絡できない場合もありますのでご了承ください。

なお，臨時休業日，振替授業日等が既に決まっている日がありますので，必ず学年暦をご確認ください。

■ e-Learning を利用する授業

授業によっては，関連した資料や参考文献の紹介と配付，質疑応答，その他様々な諸連絡を「信州大学 eALPS」上で行うものがあります。「eALPS」の利用を申請する場合は，受講窓口までお願いします。登録には，多少の日数がかかる場合があります。

■ 障害等で受講上配慮が必要な方は窓口でご相談ください。

IV 「市民開放授業一覧」について（7ページ～）

■ 「授業曜日・時限」

例1) 木2 : 木曜日の2時限（10:40～12:10）に開講します。

例2) 火4 } 週に2回授業があります。
水1 }

第1回 4/12（火）4時限，第2回 4/13（水）1時限，第3回 4/19（火）4時限・・・

■ 講義室は受講者数等の関係で変更になることがありますので，変更の掲示や教員の指示にご注意ください。

■ 「難易度」は，授業の内容に応じて次の三段階に区分しています。

【A】：入門的な内容であり，高校卒業程度の学力を必要とするもの
（大学1年次対象の授業）

【B】：より進んだ内容であり，当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの（大学2～3年次対象の授業）

【C】：高度な内容であり，当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの（大学3～4年次対象の授業）

■ 受講料が「9,400円」以外の授業については，「備考」欄にその金額を記載し

てあります。

- シラバス（授業内容の紹介）は、2022年度用の用事が間に合わないため、過去のシラバスを掲載しますので参考にしてください。（10 ページ～）そのため、実際の「曜日・時限」「講義室」等は「市民開放授業一覧」をご覧ください。

4月以降には以下のホームページで、最新のものをご覧できます。

<シラバス> <https://campus-3.shinshu-u.ac.jp/syllabusj/Top>

<前期 市民開放授業一覧>

※「シラバス」(10ページ～)は過去の情報になりますので、「曜日・時限」「講義室」等はこちらの一覧をご覧ください。

登録コード	授業科目名	担当教員氏名	曜日・時限	講義室	受入可能人数	難易度	備考
-------	-------	--------	-------	-----	--------	-----	----

【受講場所】全学教育機構

※全学教育機構の「初回の授業」のみ、諸事情で40分授業になります。

G2B40302	出版メディアと江戸文学	速水 香織	木2	共56	3	A	
G2B40604	知っておくべき知的財産と研究倫理の基本	松山 紀里子	火5	共12	3	A	
G2B41106	ドイツ語圏の文化(社会事情)	松岡 幸司	火2	共55	3	A	
G2B41112	国際理解と多文化共生を考えるⅠ	佐藤 友則	火5	共42	3	A	
G2B50306	生活の中の化学	勝木 明夫	木2	共13	3	A	
G2B60137	自然環境政策概論	坂本 真一	金2	共42	3	A	

【受講場所】人文学部

L1120200	哲学・思想論概論Ⅱ	早坂 俊廣 護山 真也	月4	経3	3	A	講義室は経法学部
L1135000	哲学・思想論基幹演習Ⅷ	早坂 俊廣	木2	人2	2	B	
L2520100	英語文学概論Ⅰ	杉野 健太郎	木4	人2	3	A	
L2531700	英語文学基幹演習Ⅴ	杉野 健太郎	火2	人1	3	B	
L2531900	英語文学基幹演習Ⅶ	杉野 健太郎	木3	人3	3	B	
L2830400	日本語教育学特論Ⅳ	坂口 和寛	木1	人1	3	B	
L2830700	日本語教育学基幹演習Ⅰ	坂口 和寛	金3	人5	3	C	
L2831000	日本語教育学基幹演習Ⅳ	坂口 和寛	金4	人5	3	C	

【受講場所】経法学部

J2108200	経済史	吉村 信之	火4 水1	経1	3	A	13,400円
J2206200	会社法Ⅰ	寺前 慎太郎	金4 金5	経2	3	B	13,400円
J3114300	医療制度論	増原 宏明	火1	経2	3	B	
J3116300	社会保障政策論	井上 信宏	木1	経3	2	C	

【受講場所】教育学部

E9120200	神経・生理心理学	高橋 知音	木1	教N303	3	B	授業開始日を4/7(木)に訂正
----------	----------	-------	----	-------	---	---	-----------------

信州大学への交通のご案内

<全学教育機構・人文学部・経法学部> 松本市旭3-1-1

- ・JR松本駅「お城口（東口）」を出て右前方、アルピコバス「松本バスターミナル」のりば1「信大横田循環線」、または「浅間線」に乗車し約15分、バス停「信州大学前」で下車して道路向かいに大学正門があります。
- 人文学部・経法学部・全学教育機構・附属図書館へは、次のバス停「大学西門」下車が便利です（どちらも200円）。



信州大学への交通のご案内

<教育学部> 長野市西長野6-0

- ①JR 長野駅善光寺口1番のりばで、アルピコバス「善光寺大門行（びんずる号）」、「善光寺經由宇木行」, 「善光寺・西条經由若槻東条行」, 「善光寺・若槻団地經由若槻東条行」のいずれかに乗車（10分）、バス停「花の小路」下車（徒歩5分）。
- ②JR 長野駅善光寺口4番のりばで中心市街地循環バス『ぐるりん号』に乗車（15分）、バス停「信大教育学部前」下車（徒歩1分）。
- ③JR 長野駅善光寺口7番のりばで、アルピコバス「県道經由戸隠中社行」, 「鬼無里行」, 「川後經由滝屋行」のいずれかに乗車（10分）、バス停「信大教育学部前」下車（徒歩1分）。



時間割コード	G2B40302	開講年度	2021				
授業題目	出版メディアと江戸文学				担当教員	速水 香織	
英文授業名	Study of Publishing media and Japanese Literature in the Edo period						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜, 2時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 2 講義室		授業形態	講義	備考	【地域】	
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加わらぬ対象】的確に情報を収集し、理解し、発信する力 【授業の達成目標】 ・毎回の授業から得られる知識の蓄積と知見の深まりとによって、文化史の流れを理解し、その重要性を明確に認識したうえで自己の考えを発信することができる。 【授業のねらい】 江戸時代に大きく発展した出版文化について学び、文化を生み出し、継承することの重要性を認識することにより、日本文化への理解を深めた上で、自己の考えを表現することができる。この毎回の授業で得る知識の蓄積を通じて、目標を達成する。</p> <p>(2)授業の概要 江戸時代、日本では、はじめて本格的な商業出版が行われるようになりました。そして、京都や大坂、江戸に興った大衆文化とあいまって、それまでに受け継がれた古典・新たに生み出された作品や実用書が、続々と版行されたのです。 この授業では、主に江戸時代前期に活動した本屋さん（出版書肆）とその出版物を取り上げ、本屋同士の係わりや、本が出版されるまでの過程等に注目し、当時の文化状況について考えてゆきます。</p> <p>(3)授業のキーワード 江戸時代、出版文化、古典籍</p> <p>(4)授業計画 1. ガイダンス 2. 江戸時代と商業出版の始まり 3. 江戸時代初期の出版物 「古活字版」 4. 江戸時代初期の出版物 「整版」 5. 出版物の製作コスト・価格・刊行状況 6. 出版文化の広がりとは諸問題 特に「上方」と「江戸」 7. 板権意識の顕在化 8. 好色本の流行 そして「上方」と「江戸」 9. 元禄期の江戸出版界 いくつかの本屋に注目する 10. 発展する組織 三都出版界の協力和相克 11. 三都出版界の協力和相克 類板問題をもう少し考える 12. 三都出版界の協力和相克 中山道関連の書籍出版をめぐる 13. 江戸文芸の出版 14. 江戸文芸の出版 15. まとめ：授業の総括と期末レポートの説明</p> <p>(5)成績評価の方法 毎回の授業に置いて、コメントの提出を求めます。それにより授業ごとの到達度をはかるとともに（50点）、中間レポート（20点）・期末レポート（30点）を提出して戴きます。 コメントについて、授業内容を纏めるだけでなく、意見・考察などを積極的に記入できているかによって、授業の内容理解度を判断します。</p> <p>(6)成績評価の基準 コメントは、授業内容への言及・質問の内容によって授業の理解度や受講態度を判断します。 コメントの中で、授業中の内容を自己の知識や知見と有機的に結び付けた優れた内容を述べることであれば「卓越している」、授業に関し具体的で優れた内容を述べることであれば「かなり上にある」、授業中の内容に関し具体的な内容を述べることであれば「やや上にある」、授業中の内容に触れた見解を述べることであれば「その水準にある」と評価します。 レポートは、授業の内容を理解し、それをふまえて課題に取り組んでいるかを評価の基準とします。課題への取り組み方法は、授業中に詳細をアナウンスします。単に辞書の記述をまとめているのみに留まるものは、レポートとして評価しません。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 授業中に、次回の授業についての資料を配布します。それに事前に目を通して予備知識を得、受講準備を整えることを事前学習とします。 江戸時代に成立した様々な書籍を紹介してゆきます。自己の興味関心に従い、積極的にそれらの書物に触れることを事後学習とします。</p> <p>この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 毎回提出して戴くコメントの内容を重要な評価対象とします。なお、授業の内容をただまとめたもの、抽象的な感想のみが書かれたものは、評価対象としません。授業を漫然と聞くだけではない、積極的な受講姿勢を求めます。 また、授業中の私語・教員の許可を得ない教室の出入りは一切認めません。他の受講生の迷惑になると判断した場合は、退室を命じ、単位認定を行わないことがあります。</p> <p>(9)質問、相談への対応 木曜日の12:10～13:00をオフィスアワーとします。 事前にメールでの連絡をお願いします。メールアドレスは、khayami@shinshu-u.ac.jpです。</p>							
<p>【教科書】 適宜プリントを配布します。プリントには、多くの参考文献を掲載しますが、可能な限り附属図書館で閲覧できるものを使用します。（特に購入の必要はありません。） 【参考書】 今田洋三『江戸の本屋さん 近世文化史の側面』（平凡社ライブラリー-685, ISBN13:978-4-582-76685-1, 1300円） 橋口候之介『和本入門 千年生きる書物の世界』（平凡社ライブラリー, ISBN13:978-4-582-76744-3, 1470円）</p>							

時間割コード	G2B40604	開講年度	2021			担当教員	松山 紀里子
授業題目	知っておくべき知的財産と研究倫理の基本						
英文授業名	Introduction to Intellectual Property and Research Ethics						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 5 時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 2 講義室	授業形態	講義	備考			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加付対象】的確な情報を収集し、理解し、発信する力 ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力 【授業の達成目標】 ・知的財産と法律等により保護される知的財産権に関する基本的な知識を習得し、身近な商品やサービス等への知的財産権の活用事例とその効果、どのような行為が権利侵害になるの理解ができるようになる。 ・工業所有権情報・研修館(NIPIIT)が運営する特許情報プラットフォーム「J-PlatPat」を用いて、特許・実用新案・意匠・商標の簡単な検索ができるようになる。 ・アイデアや創作の成果(知的財産)の本質を理解し、社会課題を解決する考え方や手法について基本的な知識を習得することができる。 ・大学生として知っておくべき研究倫理の基本的な知識を習得することができる。 【授業のねらい】 ・研究活動や社会活動に参加するにあたり、大学生として知っておくべき知的財産(発明・考案・デザイン・商標・著作物・新品種・営業秘密など)と研究倫理の基本的な知識を習得するとともに、その知識に基づいてグループメンバーと協働して、身近な課題を解決する発明の創出に取り組む。 ・工業所有権情報・研修館(NIPIIT)が運営する特許情報プラットフォーム「J-PlatPat」を用いて、特許・実用新案・意匠・商標の簡単な検索ができるようになる。 ・研究活動に関わる人が知っておくべき研究倫理の基本的な知識を習得することができる。</p> <p>(2)授業の概要 この授業では、大学生として知っておくべき「知的財産」と、研究に関わる者として知らなかったでは済まされない「研究倫理」について、ゼロから基本的な知識を学びます。では、特許事務所や大学等での実務経験があり、現在、本学の知的財産・ベンチャー支援室長として知財実務を担当する講師が、知的財産の種類、保護する法律等の基礎知識に加えて、身近な知的財産やニュース等の具体的な事例を教材として用います。また、新たな発明を創出するグループワークを行い、その成果について特許庁・文部科学省が主催する「パテントコンテスト」(9月〆切)に応募し、入賞を目指します。(令和2年度は2グループが優秀賞に入賞) では、現在、本学の研究コンプライアンス室の副室長として実務を担当する講師が、過去の事例を取り上げながら、研究倫理の基礎知識に加えて、これから大学生として研究を行っていく上でリスクマネジメント法を考えます。</p> <p>(3)授業のキーワード 知的財産、発明、特許、実用新案、意匠、商標、著作物、著作権、新品種、ライセンス、特許調査、パテントコンテスト、研究倫理、研究不正、利益相反、安全保障輸出管理、生物多様性条約、秘密保持、グループワーク、実務経験</p> <p>(4)授業計画 【スケジュール】 第1回(4/13): ガイダンス(なぜ知的財産と研究倫理を学ぶ必要があるのか?) 第2回(4/20): 特許・実用新案の基礎知識 第3回(4/27): 特許・実用新案の基礎知識 第4回(5/11): 意匠(デザイン)の基礎知識 第5回(5/18): 商標(トレードマーク)、育成権(種苗法)の基礎知識 第6回(5/25): 著作権、営業秘密、研究成果有体物等の基礎知識 第7回(6/1): 知的財産のまとめ(ミニテスト、事例に基づくグループ討論) 第8回(6/8): 研究倫理の基礎知識 第9回(6/15): 研究倫理に関する事例から学ぶ 第10回(6/22): 知的財産情報の検索・解析・活用(特許・実用新案) 第11回(6/29): 知的財産情報の検索(意匠・商標調査) 第12回(7/6): 知的財産を巡る事件/大学と知的財産(技術移転、大学発ベンチャー企業) 第13回(7/13): グループワークの中間発表 第14回(7/20): 大学生活に必要な知的財産と研究倫理の知識(本講義のまとめ) 第15回(7/27): グループワークの最終発表、授業アンケート</p> <p>【課題レポート】 毎講義の最後に授業内容に関する課題レポートを出します。次の講義前日までに提出してください。第1回-5回、第7回-8回までは知的財産・研究倫理に関する知識の定着を目的として、身近な知的財産を探したり、ニュース等を調べて(A4サイズ・1枚)にまとめてもらいます。第9回-12回は、知的財産情報を検索する基本技術を身に付けてもらうために、特許情報プラットフォーム・J-PlatPat(https://www.j-platpat.inpit.go.jp/)を用いて知的財産権を調べて(A4サイズ・1~2枚)にまとめてもらいます。課題レポートは様式を準備します。また、課題レポートで取上げた発明等について特許公報等の情報をできるだけフィードバックします。 【ミニワーク】 第1回-6回は、授業後半に講義内容に関連するミニワークを実施します。クイズ形式、ワークショップ形式、ディスカッション形式などゲーム感覚で取り組める内容を予定しています。 【グループワーク】 第7回からパテントコンテスト(https://www.patentcontest.inpit.go.jp/)の応募に向けた新たな発明を創出するグループワークを実施します。具体的には、第7回-8回にグループで解決する課題を設定し、アイデアを練って具体的な発明品を創出していきます。 第13回に発明概要シート(A4サイズ・1~3枚)に基づく中間発表を行っていただきます。他の受講生からのフィードバックを受けて発明を練り直し、第15回までにパテントコンテストの申請書と、プレゼン資料を作成し、最終発表していただきます。最終発表には、元・企業の知財担当者や弁理士などの知財専門家を審査員(2~3名)としてお招きし、評価していただきます。</p> <p>(5)成績評価の方法 毎回の課題レポート 55点(5点×11回) 第7回ミニテスト(選択式) 15点 グループワーク 30点(中間発表:10点、最終発表:20点)</p> <p>(6)成績評価の基準 【課題レポートの評価基準(5点満点)】 ・課題の意図・授業内容を理解して適切な回答ができていれば、3点。 ・適切な日本語、文章表現、論理展開等により分かりやすく説明できていれば、2点。 【ミニテストの評価基準(15点満点)】 ・各問について4つの選択肢から正しい回答ができていれば、1点。全15問。 【グループワークの評価基準(30点満点/グループ全員同じ評価とします)】 中間発表(10点): 発明概要シートの各項目の記載が、教員を感心させるレベルならば5点。よく練られていれば4点。適切であれば3点。不十分であれば2点。プレゼンテーションが、特に優れていれば5点。適切であれば4点。不十分であれば2点。 最終発表(20点): パテントコンテストの応募書類の記載が、教員を感心させるレベルならば10~9点。よく練られていれば8~7点。適切であれば6~5点。不十分であれば4~3点。プレゼンテーション&質疑応答が、特に優れていれば10~9点。適切であれば8~6点。不十分であれば5~3点。 受講生による投票により、上位1/4に入ったグループには最大5点。1/4未満~1/2に入ったグループには最大3点を加点。(30点満点を上限として加点します)</p> <p>【最終評価(100点満点)】 期末時に課題レポート、ミニテスト、グループワークの合計に基づいて評価を行います。 90点以上は、秀(授業の達成目標の水準から見て卓越している)。80点以上は、優(授業の達成目標の水準よりかなり上にある)。70点以上は、良(授業の達成目標の水準よりやや上にある)。60点以上は、可(授業の達成目標の水準にある)。59点以下は、不可(授業の達成目標の水準にない)。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 【60時間以上の時間外学習が必要となります】 ・毎回の講義の最後に課題レポートを課します。課題は、身の回りの知的財産を探したり、調べてもらう内容となります。日頃からどんな製品やサービスに知的財産が活用されているのか、ヒット商品のウラにある企業戦略などを意識するようにしてください。 ・毎回の講義で、授業内容の理解を深めるために役立つWebサイト、書籍、報告書、テレビ番組等を紹介いたします。可能な範囲で確認して復習するようにしてください。 ・授業時間内にグループワークの時間を少し設けますが、グループでの議論や作業の多くは授業外で行うこととなります。</p> <p>(8)履修上の注意 ・講義資料等は、毎回の授業後にe-ALPSにアップします。復習に活用してください。 ・出席は、学生証による出席確認システムを利用します。授業開始後30分後から遅刻とします。 ・グループワークは、授業時間外にグループメンバーで話し合っ、役割分担や協働して作業を進める必要があります。 ・パテントコンテストに入賞した場合、特許事務所(弁理士)の指導を受けながら出願書類を作成して学生さんの名義で特許出願を行います(令和4年2月頃)。特許出願と権利化に係る費用はパテントコンテストの主催者が負担します。</p> <p>(9)質問・相談への対応 ・質問や相談は授業中、もしくは、授業の前後に受け付けます。 ・授業時間外は、kirico@shinshu-u.ac.jpまたはTEL: 0263-37-3529 (URA室)まで連絡ください。 ・知的財産管理技能士(級・3級)、弁理士などの知財関連の資格取得についても相談のります。</p>							
【教科書】 指定しない。							
【参考書】 必要に応じて授業の中で紹介します。							

時間割コード	G2B41106	開講年度	2021				
授業題目	ドイツ語圏の文化（社会事情）				担当教員	松岡 幸司	
英文授業名	Cultures of the German-Speaking World (The social situation)					GOTO CORINNA VERENA	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 2時限	対象学生	全
講義室	共通教育401演習室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力 【授業の達成目標】 ・グローバル化が進む今日の社会において、国際理解・異文化理解を通して、多文化共生を軸とした社会のあり方について自分としてのスタンスを持ち、文化受容マインドを獲得することができるようになる。 【授業のねらい】 21世紀もすでに10年以上が過ぎました。様々な分野でのグローバル化に伴い、今世紀は、多様な文化との共生を目指す社会の実現へと向かう時代と言えるでしょう。その象徴と言えるのが国際語としての英語習得の必要性です。しかし、社会の中で英語が国際コミュニケーションの手段として活用されればされるほど、英語は、言語が背景に持つ文化から離れ、いわば「無国籍化」しつつあります。それに比べてドイツ語は、文化的背景を保持し続け、ドイツ語圏文化もヨーロッパ文化の中で重要な位置にあります。 本講義では、そのようなドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とします。言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を通して、「異文化とは何か？異文化理解とは何か？」ということについて、自分のスタンスを持つことができるようになるのがこの講義の到達目標です。</p> <p>(2)授業の概要 数回の授業で一つの大きなテーマを扱います。それぞれのテーマについて教員からの情報提供（講義）を受け身で聞いているだけでは「異文化理解」は不可能です。「理解」とは能動的な働きかけなのです。そこで本講義は、教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなどを組み合わせ、単なる「文化受信」ではなく、受講生が自ら興味を持ち、情報収集をして、それを受講生全員で共有し考える授業になります。</p> <p>(3)授業のキーワード ドイツ、オーストリア、スイス ドイツ語圏の文化、歴史、社会 グループワーク</p> <p>(4)授業計画 1. オリエンテーション：ドイツ（語圏）って？（松岡） 2-4. オーストリアについて（Goto） 5-7. ドイツ概観（松岡） 8-11. ドイツ人と森（松岡） 12-15. 環境について（松岡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15回目の授業時に、授業アンケートを実施します。 ・授業テーマの順番は、変更する可能性もあります。 <p>(5)成績評価の方法 下記の要素を総合して成績を評価する ・毎回の確認課題 [40%] ・グループワークの発表内容 [20%] ・期末のレポート [40%]</p> <p>(6)成績評価の基準 ・毎回の確認課題：出席確認を兼ねた授業内容確認課題を課し、授業内容をふりかえりつつ自分の理解度を確認し、成績評価の要素とする。 [40%] ・グループワークの発表内容：授業内容の理解と深化を確認する。 [20%] ・期末のレポート：講義内容の把握、資料を用いた視野と理解の拡大、自分の受容の確認を通して、文化受容マインドの獲得の度合いを評価する。 [40%]</p> <p>これらを総合して、下記のように評価する。 90点以上：十二分に授業の達成目標の水準に達した 80点以上：授業の達成目標の水準に達した 70点以上：ある程度、授業の達成目標の水準に達した 60点以上：最低限、授業の達成目標の水準に達した</p> <p>(7)事前事後学習の内容 ・事前にeALPSにアップされる情報やプリントに目を通して、授業の準備をする必要がある。 ・また、授業で扱うテーマについては、授業後に各自で積極的に情報を集め理解を深める必要がある。毎回その作業をしっかり行う必要がある。その際に参考になる情報は、やはりeALPSにアップするので積極的に利用すること。</p> <p>この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 ・使用するプリントはeALPSに事前にアップします。2回目の授業から、各自授業前に自分でダウンロード&プリントアウトして授業に持参すること。 ・講義科目ではあるが、講義を聴いているだけでは異文化理解など不可能。資料には必ず目を通すだけでなく、自分の興味に従って情報を集めるとともに理解を深め、グループワークにも積極的に参加する必要がある。 ・ドイツ語初級を併せて履修すると、言語と文化の関係をより深く感じることができるので、ドイツ語も履修することを強く勧めます。</p> <p>(9)質問、相談への対応 松岡の対応は以下の通りです。 オフィスパワー：水曜日3限 研究室の場所：共通教育南棟3階北側 メールアドレス：maulwurf@shinshu-u.ac.jp</p> <p>オフィスパワーの時間に来れない人は、メールにて相談してください。</p>							
<p>【教科書】 高橋憲：《最新版》ドイツの街角から。素顔のドイツ その文化・歴史・社会。ISBN-13: 978-4261012651。郁文堂（2017）。¥1,404-</p> <p>【参考書】 新野守広、飯田道子、梅田紅子（編著）：知ってほしい国ドイツ。ISBN-13: 978-4874986332。高文研（2017）。¥1,836-</p> <p>その他、授業時に適宜指示します。</p>							

時間割コード	G2B41112	開講年度	2021				
授業題目	国際理解と多文化共生を考える				担当教員	佐藤 友則	
英文授業名	International Understanding and Multi-cultural co-living						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 5時限	対象学生	全
講義室	共通教育 4 6 講義室		授業形態	講義	備考	【地域】	
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加付対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力 ・【2020年度以降加付対象】的確に情報を収集し、理解し、発信する力 ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組み力 【授業の達成目標】 ・資料を採り、読み込み、それをベースにデータをまとめ、意見が書ける基礎学力。多文化共生という新しい分野の知識を理解し、意見を述べられる専門的学力 ・移民受入に関する非常に多く多様な情報群から、妥当なものを選び出し、自分なりにまとめたうえで理解と認識し、自分なりのオリジナリティがある意見を話し、書ける能力 ・単一化・自己満足・少子高齢化による日本社会の衰退が始まらぬよう、危機意識と未来への明るい展望を持って議論し、意見を固め、さらに自ら行動を始められる力 【授業のねらい】 この授業は、 世界および日本国内の多文化共生について学び、認識を深め、実際の行動に移せるようになる。： 65% 世界の多様な状況、考え方、問題点などを理解・認識し、一人の人間として世界の多くの人、国、文化の中で生きていく意味を考える。： 35% ためのものです。</p> <p>(2)授業の概要 留学生と日本人学生とで4-6人程度のグループを作ります。そのグループは1ヶ月ほどでメンバー交代をし、受講者は3つのグループを経験します。事前学習や授業前半でその週のテーマに関する情報を得た後、グループ単位で「多文化共生」や「国際理解」に関するディスカッションを行い、お互いの情報・意見を交換し合うことで理解を深めていきます。 授業後には自分の意見を述べる課題が出ます。また、予習のために「eALPSの小テスト」が複数回実施されます。 また、英語でディスカッションをするグループを作成します。英語でディスカッションしたい人も受講してください。 2020年前期の受講者は全101名で、5名ほどのグループを23作りました。</p> <p>(3)授業のキーワード グループワーク レポートのフィードバック コミュニケーション アイデンティティ 多文化共生 移民</p> <p>(4)授業計画 1. ガイダンス/ 多文化共生の基礎 2. 効果的な自己紹介/ 松本市の紹介 3. 多文化共生を考える 自分の近くの外国由来の人 4. 外国由来の人のミス・コミュニケーション 5. 多文化共生 外国由来の人が一緒に住んでいて「いいこと」 6. 歴史認識 7. 多文化共生 外国由来の人が日本で困っていること 8. 多文化共生 行政との協働 9. 環境と自分達のできる活動 10. 多文化共生 疎外意識&英語 11. 思いこみ 12&13連続・多文化共生 外国由来の児童・生徒 1グループで協働してスライドを作成・提出・優秀なスライドは発表 (1週間、やすみ) 14. 交換留学について真剣に考えよう 15. 多文化共生 基本法：最終課題の提示、2週間で提出 終了前に授業アンケート(15分)</p> <p>(5)成績評価の方法 ・通常課題： 20% 授業の最後に出される課題の提出率 ・重要な3つの課題： 20% 授業の最後に出される課題のうち、3つの重要な課題の提出率と質 ・eALPSでの小テストの受験率： 20% ・最終課題の質： 30% ・授業での積極性： 10%</p> <p>(6)成績評価の基準 『その水準にある』：「通常課題」を60%以上提出し、「重要な3つの課題」のうち2つを提出しており、「eALPSの小テスト」を60%以上受験し、授業の内容を理解したうえで書いた「最終課題」を提出し、いくつかの授業で積極性が見られる者。 『やや上にある』：「通常課題」を70%以上提出し、「重要な3つの課題」のうち2つを提出しており、「eALPSの小テスト」を70%以上受験し、『その水準にある』事項が含まれたうえで自分なりに調べた事実を効果的に加えた「最終課題」を提出し、ほとんどの授業で積極性が見られる者。 『かなり上にある』：「通常課題」を90%以上提出し、「重要な3つの課題」を全て提出したうえである程度の評点を獲得しており、「eALPSの小テスト」を繰り返し受験し、『やや上』までの事項が含まれたうえで説得力があるレベルの「最終課題」を提出し、全ての授業で積極性が見られる者。 『卓越している』：「通常課題」を全て提出し、「重要な3つの課題」を全て提出したうえで高い評点を獲得しており、「eALPSの小テスト」を全て100点になるまで繰り返し受験し、『かなり上』までの事項が全て含まれたうえで、教員を感心させるレベルの「最終課題」を提出し、全ての授業での積極性が他の学生より際立っている者。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 毎授業後に、授業で使ったスライドをアップロードするので、それらを読んで授業内容を復習してください。そのうえで、課題作成に必要な事実を教材やInternet等から探し、それらを総合して記述する課題を提出してください。 また、教材をページ指定のうえ読んでくるよう指示をします。しっかり読んでからeALPS「小テスト」を受けてから授業に来てください。小テストは3回受けられるので、満点にしてから受講してください。 課題は、ほぼ毎週、出ます。締切は1週間後です。 さらに、国際関係および多文化共生に関するニュースに敏感になり、様々なニュース・ソースから素早く情報を入手&判断し、他人に伝達できるよう、自分を鍛えていってください。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 同グループの人の話を聞いて、それを元に自分の情報や意見をしっかりと述べる態度を求めます。漫然と、発言もなくディスカッションの席に座っていることは許可しません。 グループは2回、交代します(計3グループ)。グループ・メンバーの迷惑になるので、遅刻・欠席をしないでください。 授業前に学生証で出席登録のみしてから帰る(ビ逃げ)、または代理で登録することが分かった場合、CまたはDになることがあります。</p> <p>(9)質問・相談への対応 全学教育機構棟2F・グローバル推進センターの先にある「佐藤研究室」にいますので、質問・意見などがあれば、いつでも気軽に来てください。また、授業後すぐでも受け付けますし、メールでの質問もOKです。 佐藤のメールアドレスは stono@shinshu-u.ac.jp です。 授業では、松本市内での多文化共生の活動や信大での国際交流活動を積極的に紹介します。そのような活動に興味がある場合も質問・相談に来てください。</p>							
<p>【教科書】 佐藤友則『多文化共生 8つの質問 -子どもたちが豊かに生きる2050年の日本』 第2刷または第3刷 学文社 2000円+税 第1刷ではなく第2刷または第3刷を用意。第4章が異なるため注意。 【参考書】 『外国につながる子どもたちの物語』編集委員会 『クラスメイトは外国人 課題編』 明石書店 2020 1,300円+税 『外国につながる子どもたちの物語』編集委員会 『クラスメイトは外国人 -多文化共生20の物語』 明石書店 2010 1,200円+税 佐久間孝正『外国人の子どもの不就業』勁草書房 2008 2,400円+税 毛受敏浩『限界国家 人口減少で日本が迫られる最終選択』朝日新書 2017 780円+税 川上郁雄『私も「移動する子ども」だった』くろしお出版 2010 1,400円+税 松永典子『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』金木犀舎 2018年 1,300円+税</p>							

時間割コード	G2B50306	開講年度	2021				
授業題目	生活の中の化学				担当教員	勝木 明夫	
英文授業名	Living chemistry						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜, 2時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 3 講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加わった対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力 【授業の達成目標】 ・身の回りの化学について理解することができるようになる。 【授業のねらい】 皆さんはいろいろな「もの」に囲まれて生活している。その「もの」は、化学物質でできている。 化学の本質は、基礎科学科目である「一般化学I, II」等で取り扱っているが、それらの内容は高校の化学と全く異なり、とっつきにくいところがあるため、本当の化学をやっているにもかかわらず、誤解される、あるいは偏見をもって見られていることもある。 本来、化学は他の自然科学分野（物理、生物、地学）にもまたがる基本的な分野であり、また、「もの」を扱う（作る、測定する、解析をする）分野である。例えば、化学反応は、「もの」の反応で、フラスコのようなガラス器具内だけで起こるものだけではなく、宇宙、大気中から、身体の中でも起こっている。このように考えていくと日常生活は化学に囲まれていると言っても過言ではない。だから、「原子、分子の本当の姿は？」「反応はなぜそう起こる？」「この性質はどこから？」について考えてきて、一般法則を見出してきて。 この講義では、身近な題材を用いた入門用の本に沿って進めていく。今回用いる本は、アメリカで発刊された本の訳本であるため、化学のとらえ方について共通点、相違点（間違いという意味ではない）も感じてほしい。 日常生活で何気なく思っていたことを少しでも化学的に解釈できるように、化学を学ぶことを目標とする。 【学生が何を身に付けるのか】 身の回りの現象を化学的に理解するための基礎知識を身につける。入門用だからこそ、基本的な勉強は必要である。</p> <p>(2)授業の概要 身近な題材をとりあげた基礎化学の教科書に沿って進める。化学（科学）の基本の知識から始まり、身の回りの化学まで扱う。本来、化学の基礎知識なしで環境問題を扱うべきではない（環境問題について、真偽を問うことができない）。講義時間内では深く扱えないが、環境問題についても考えるきっかけとなるように進める予定である。</p> <p>(3)授業のキーワード 基礎化学、環境化学、課題発見・解決、論理的思考</p> <p>(4)授業計画 下記の講義内容を適宜修正しながら進める。 第1回 化学について（科学的方法：考える、測定する、また考える） 第2回 原子について（原子とそのなかに潜むものすべて） 第3回 すべてのもの（物質を体系づけ、分類するには？） 第4回 化学結合（原子を束ねる力を理解するために） 第5回 炭素（炭素、有機分子とカーボンフットプリント） 第6回 気体（大気中の気体とそのふるまい） 第7回 化学反応（化学変化をどう追跡するか） 第8回 水（水は人間と地球にとって不可欠なのか） 第9回 塩と水溶液（塩の性質：塩はどのように水と相互作用するのか） 第10回 pHと酸性雨（酸性雨と私たちを取り巻く環境） 第11回 原子力（核化学の基礎） 第12回 エネルギー・電力・気候変動（電力を発生させ、エネルギーを保存する新しい方法） 第13回 持続可能性とリサイクル（資源の利用・再利用のためのよりよい方法をめざして） 第14回 食べ物（私たちが口にする食品の生化学） 第15回 （未定）、授業アンケート 第16回 期末試験</p> <p>(5)成績評価の方法 授業内容の理解度を測るための小テスト（eALPS上で実施）（13回 × 2点）および期末試験（75点）で評価する。ただし、授業で扱う課題の特長に応じて、小テストの課題が課されないこともある。 授業を受けて、eALPSの動画視聴のあと、小テストを解いて出席とする。</p> <p>(6)成績評価の基準 授業で触れた内容に基づく問題が解ければ「水準にある」、授業内容を簡単な数式を用いて定量的に考えることができれば「やや上にある」、複数回の授業内容を横断する問題が解ければ「かなり上にある」、授業全体を俯瞰しなければ解けない問題が解ければ「卓越している」とみなす。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 教科書に沿って進行するので、事前に予習が望ましい。 また、様々なメディアで化学に関するトピックが取り上げられることが多くなっている。そのような報道や記事に関心を持つようにしてほしい。記事の内容、あるいは授業で取り上げた化学が自分の生活とどのようにかかわっているのか、もっと詳しく知りたい場合、図書館で関連書籍を見つけるなどして自主的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。 授業のあと、eALPSの動画を視聴して、小テストを解いて出席とする。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 1回の講義で教科書1章を進める予定であるが、授業時間内ですべてを網羅することはできない。授業で触れられなかった部分も重要なので、必ず授業時間外学修で確認すること。 出席点は計上しないが、欠席すると1点を減ずる。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなし、20分以内の遅刻・早退は2回で欠席1回とみなす。6回の欠席で失格になる。出席していても居眠りや私語などを行っている場合、注意しなくとも減点することがある。 期末試験では、30分超遅刻した場合、受験資格がなくなるので、注意すること。 この講義では、授業時間外学習を重視しており、60時間の時間外学習が必要となる。</p> <p>(9)質問、相談への対応 水曜日の5時限目をオフィスアワーとする。学生コミュニケーションスペース（全学教育機構棟南校舎4F、ガラス張りの部屋）で対応する（状況により中止することがある）。 メールでも対応する。メールアドレスは、以下のとおりである。 akatuki@shinshu-u.ac.jp メールをする際は、マナー、エチケットと守るようにすること。わからない場合は、新入生ハンドブックを読むこと。</p>							
【教科書】 キンバリー・ウォルドロン著、竹内敬人訳、教養としての化学入門、化学同人、ISBN 9784759818291、3,000 円（税別）。 【参考書】 授業中に随時紹介する予定である。							

※科目名が異なりますが、
「自然環境政策概論」の内容になります。

時間割コード	G2B60137	開講年度	2021		
授業題目	自然環境行政概論			担当教員	坂本 真一
英文授業名	Introduction to natural environment administration				
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜, 1時限
講義室	共通教育 1 2 講義室		授業形態	講義	備考
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加付対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力 【授業の達成目標】 ・自然環境分野における行政施策を通じ、身近な生活や社会・経済と関連づけながら、自然環境保全に関する知識を身につけるとともに判断力を養うことができるようになる。 【授業のねらい】 環境の分野は多岐に渡りますが、とりわけ自然環境は私たちの生活と深い関係を有しています。私たちは自然界から様々な恵みを受けていますが、恵みを受け取れなくなれば地球は滅亡します。私たちが将来にわたってこの恵みを楽しんでいくためには、持続可能な利用が不可欠です。 本授業では、私たちを取り巻く自然環境に関する行政の動向を通じ、市民として取るべき行動の基礎となる知識を習得します。身近な地域から国際的課題まで具体的な事例を基に自らの考えを説明できるようになることを目標とします。</p> <p>(2)授業の概要 本授業は講義形式で行います。 授業では、環境分野の中でも特に自然環境をテーマとします。担当教員は、自然環境行政の実務経験を有しており、自然環境に関わる行政の取り組みについて、法制度や現在に至るまでの背景について、経験や具体的事例を踏まえながら取り上げていきます。 なお、本講義は全学横断教育プログラム「環境マインド実践人材養成コース」のコア科目です。</p> <p>(3)授業のキーワード 生物多様性、生態系サービス、気候変動、国立・国定公園、自然環境保全、自然再生、世界遺産、自然観光、環境教育、合意形成、持続可能発展、信州、環境マインド、実務経験</p> <p>(4)授業計画 主として講義形式で行います。扱うテーマやトピックは時事的内容により変更することがあります。 1. 環境とは何か 2. 環境問題の歴史 3. 環境行政の仕組み 4. 自然環境の法律 5. 生物多様性と4つの危機 6. 生物多様性の政策 7. 自然公園の仕組み 8. 自然公園の管理 9. 野生生物の保全管理 10. 野生生物行政の実際 - ライチョウの保全の取組 - : ゲスト講義 11. 科学の役割 12. 国際的な取り組み (世界遺産やユネスコパーク、ラムサール湿地) 13. 自然とのふれあい 14. 地方自治体における自然環境行政の取り組み : ゲスト講義 15. まとめ、授業アンケート 16. 期末試験 ゲスト講義は、実際にその業務にあたっていらっしゃる方からお話いただく予定です。 なお、授業の進行状況により内容は変更することがあります。</p> <p>(5)成績評価の方法 講義中の質問及びコメントシート(40点)、中間レポート(20点)、期末試験(40点)で評価します。中間レポートと期末試験については、() 課題設定を正確に理解しているか、() 論理的な文章構成・展開がされているか、() 参照事例やデータ等の事実関係を適切に含んでいるか、() 自身のオリジナルな見解や意見を的確に表現しているか、の各観点から配分25%ずつとして評価します。</p> <p>(6)成績評価の基準 期末時にすべての合計点をもち、授業の達成目標に対して5段階で判断を行います。 90点以上:秀(基準から卓越している) 80点以上:優(基準よりも、かなり上にある) 70点以上:良(基準よりも、やや上にある) 60点以上:可(基準を満たしている) 59点以下:不可(基準を満たさない)</p> <p>(7)事前事後学習の内容 まずは環境問題に関心を持つことが大切です。講義で取り上げる課題について、行政機関が発信する広報資料やWEB情報を参考にしながら、常に自分との関わりについて考えることを求めます。特に新聞やニュース等で紹介される自然環境分野に関する報道内容等に注意を払い、自分なりの感想や意見をもつようしてください。 また、長野県内や出身地近隣などの国立・国定公園をはじめ、講義で取り上げた施策が実際に取り組まれているところを訪れたり、調べてみるなどの積極性を期待します。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 受講希望者が超過した場合、抽選を行うことがあります。 なお、担当教員は自然環境行政の実務経験を有していますので、自然環境分野に関する具体的な関心を持つ学生や将来公務員試験受験を考えている学生を歓迎します。</p> <p>(9)質問、相談への対応 授業中や授業時間後に質問や相談に応じます。また、メールで随時受け付けますので気軽に問い合わせてください。メールアドレスは、saka_sin@ (アットマーク以下は大学で付与されるメールアドレスと同じです)。</p>					
<p>【教科書】 教科書は指定しません。(必要に応じて資料を配布します。) 【参考書】 ・最新年度の「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」(環境省編集・発行) ・長野県環境白書(長野県環境部環境政策課 編集・発行) ・国立公園研究会・自然公園財団編『国立公園論 国立公園の80年を問う』, ISBN 978-4-86124-359-2, 南方新社, 2017年, 1,800円(税別) このほか、必要に応じて授業の中で紹介します。</p>					

登録コード	L1120200	開講年度	2021				
担当教員	護山 真也			副担当	早坂 俊廣		
授業科目	哲学・思想論概論						
英文授業名	Introduction to Philosophy						
授業タイトル	哲学・思想論概論						
単位数	2	対象学生	1~4	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	経法第3講義室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・東洋思想で扱われる哲学的諸問題に対して、必要な資料の読解を基礎としてうえで、それぞれの問題に対する自分の考えを構築することができるようになる</p> <p>(3)【授業のねらい】 1. インド哲学・仏教哲学・中国哲学・日本哲学の主要なテーマについて、その思想的背景をおさえつつ、その哲学的な価値を正しく評価する批判的思考を身につけること。</p> <p>2. 東洋思想の代表的な思想家たちの言葉や考えが、決して過去の遺物ではなく、現代の諸問題を考える上でも有効な視点を提供するものであることを理解し、柔軟な発想で物事に取り組むことができるようになること。</p> <p>3. レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得すること。</p>						
授業の概要	前半はインド哲学・仏教哲学から、後半は中国哲学・日本哲学から、「自己」「言葉」「心」というテーマをめぐる代表的な考え方を取り上げます。原則として、入門・概説レベルの内容が講義形式で紹介されます。これにより、【授業のねらい】1.と2.を実現します。前半1回、後半1回のレポートが課されますので、それに取り組むことで【授業のねらい】3.も目指します。						
授業計画	<p>第1回：イントロダクション 「東洋哲学」をめぐるあれこれ（護山、早坂）</p> <p>第2回：真実の自己を探して ウパニシャッド哲学（護山）</p> <p>第3回：真実の自己はない ブッダの人間観（護山）</p> <p>第4回：それでも自己が必要なわけ 『ミリンダ王の問い』と人格の同一性の問題（護山）</p> <p>第5回：空は無ではない 『般若心経』の世界（護山）</p> <p>第6回：言葉を超えて ナーガールジュナの空思想（護山）</p> <p>第7回：心の謎 唯識の哲学（護山）</p> <p>第8回：信仰と論理 仏教論理学（護山）</p> <p>第9回：海を渡った日中の宗教人・知識人（早坂）</p> <p>第10回：「克己復礼」～孔子とは一体だれのことか？～（早坂）</p> <p>第11回：「本来無一物」～老荘思想と禅仏教～（早坂）</p> <p>第12回：「性善」と「性悪」～孟子と荀子の人間観～（早坂）</p> <p>第13回：「八条目」～朱子学と陽明学 その1～（早坂）</p> <p>第14回：「性即理」と「心即理」～朱子学と陽明学 その2～（早坂）</p> <p>第15回：江戸思想史再考・授業アンケート（早坂）</p>						
成績評価の方法	二回のレポートで成績評価を行います。						
成績評価の基準	<p>前半についてのレポート（5割）、後半についてのレポート（5割）の結果をあわせて、最終的な成績を決定します。また、成績評価の基準は以下の通りです。</p> <p>成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。</p>						
事前事後学習の内容	毎回の講義に対して、事前・事後に各自で配布プリントを見直し、必要に応じて、図書館で関連する文献にあたってもらいます。その積み重ねがなければ、レポート作成は困難です。						
履修上の注意	このシラバスをしっかりと読んでから履修してください。						
質問、相談への対応	<p>メールおよびオフィスアワーで対応します。</p> <p>護山：smoriyam@shinshu-u.ac.jp（毎週水曜日12:10-13:00）</p> <p>早坂：まずは、hayask@shinshu-u.ac.jpにメールを送ってください。</p>						
教科書	授業中にプリントを配布します。						
参考書	<p>赤松明彦『インド哲学10講』（岩波新書）</p> <p>宮元啓一『インド哲学七つの難問』（講談社選書メチエ）</p> <p>竹村牧男『入門 哲学としての仏教』（講談社現代新書）</p> <p>魚川祐司『仏教思想のゼロポイント』（新潮社）</p> <p>横山紘一『唯識の思想』（講談社学術文庫）</p> <p>桂紹隆『インド人の論理学』（法蔵館文庫）</p> <p>齋藤哲也『もっと試験に出る哲学 「入試問題」で東洋思想に入門する』（NHK出版新書）</p>						

※科目名が違いますが、
「哲学・思想論基幹演習Ⅷ」の内容になります。

登録コード	L1132400	開講年度	2020				
担当教員	早坂 俊廣	副担当					
授業科目	哲学・思想論基幹演習Ⅸ						
英文授業名	Philosophy Foundation Seminar IX						
授業タイトル	中国思想基幹演習C						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文501演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1) 授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力 <p>(2) 【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代日本に生きる者からすれば大きく発想を異にするはずの中国の古典を読解し、その意義について判断できるようになる。 <p>(3) 【授業のねらい】</p> <p>中国哲学の基本文献を徹底的に読み込むことを通して、その思想世界を正確に深く理解することができるようになることを、まずは目指します。そして、このような形で「伝統思想」と向き合うことによって、現代社会のものの見方を特権化せず、自己をより広い地平で捉えられる視座を獲得することも目指します。さらに、自己の考えた事柄を他人に正確に詳しく伝える技能の修得も目指します。</p>						
授業の概要	かなり個人的な『老子』現代日本語訳を講読します。原文も適宜参照していきます。毎回、担当者を決めて、読解の成果を報告してもらい、それについて参加者全員で討議します。以上のことを通して、中国伝統哲学の精神を正しく深く理解できるようになり、それを他人に正確に詳しく伝えられるようになるを目標とします。						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：老荘思想について（講義）</p> <p>第3回：教科書「じょうぶな頭とかしい体になるために」に関する報告と全体討議</p> <p>第4回：教科書「善」と「信」の哲学に関する報告と全体討議</p> <p>第5回：教科書「女と男が身体を知り、身体を守る」に関する報告と全体討議</p> <p>第6回：教科書「老年と人生の諦観」に関する報告と全体討議</p> <p>第7回：教科書「宇宙の生成と「道」」に関する報告と全体討議</p> <p>第8回：教科書「女神と鬼神の神話、その行方」に関する報告と全体討議</p> <p>第9回：教科書「士」の矜持と道と徳の哲学に関する報告と全体討議</p> <p>第10回：教科書「士」と民衆、その周辺に関する報告と全体討議</p> <p>第11回：教科書「王権を補佐する」に関する報告と全体討議</p> <p>第12回：教科書「世直し」の思想に関する報告と全体討議</p> <p>第13回：教科書「平和主義と「やむを得ざる」戦争」に関する報告と全体討議</p> <p>第14回：教科書「帝国と連邦制の理想」に関する報告と全体討議</p> <p>第15回：全体討議</p> <p>定期試験：なし（最終レポート）</p>						
成績評価の方法	毎回、担当者を決めて分析結果を報告してもらいます。おおむね、報告と授業中の発言50%、最終レポート50%の割合で総合的に評価します。						
成績評価の基準	<p>成績評価の基準は以下の通りです。</p> <p>成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。</p>						
事前事後学習の内容	自分の担当箇所について事前に入念に準備し、演習の結果を受けて事後に修正を加えることは、最低限行ってください。そのうえで、担当箇所以外についても、教科書・参考書を熟読玩味することが必要です。						
履修上の注意	教科書は必ず購入してください。						
質問、相談への対応	まずは、メールをhayask@shinshu-u.ac.jpに送ってください。						
教科書	保立道久『現代語訳 老子』（ちくま新書）						
参考書	ドリアン助川『バカボンのパパと読む「老子」』（角川文庫）。 その他、授業で適宜紹介します。						

登録コード	L2520100	開講年度	2021				
担当教員	杉野 健太郎		副担当				
授業科目	英語文学概論						
英文授業名	Introduction to Literature in English						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	1~4	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文第4講義室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 ・変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力 ・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力 ・情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー ・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 ・領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語文学を通して、思索ができるようになる ・英語文学を通して、変容する社会を冷静に分析し批判できるようになる ・英語文学を通して、過去の英知の批判的継承ができるようになる ・英語文学を通して、異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断できるようになる ・英語文学を通して、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーを身につけるようになる ・英語文学を通して、他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシーが身につく ・英語文学を通して、グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力が身につく ・英語文学を通して、領域横断的な事柄に対する問題解決ができるようになる <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>英米文学文化にまだ余りなじみのない人がこれから英米文学文化を受容し研究していくための基礎を形成します。具体的に言えば、英米を中心とする英語圏文学・文化の基礎知識（リテラシー）を身につけることが基本的なねらいです。また、受容力だけでなく、英米の文学・文化に関する初歩的思索研究力を身につけることを第二のねらいとします。この授業は、イギリスを中心とします。</p>						
授業の概要	<p>では、イギリスとアメリカの文学と歴史、地理、音楽について学びます。また、文学・文化に関する基礎知識（リテラシー）だけではなく初歩的思索研究力（問題を発見し思索し分析し考えをまとめられるようになること）を身につけるために、文学・文化事項に関して個人プレゼンを行います。人数によっては、個人プレゼン担当以外の方はレポートを作成します（受講者の数などによって決めます）。また、できる限り英語で読み、見て、英語力も養成します。</p>						
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション + イギリスとは何か・交通</p> <p>第2週 英語と英語圏について・イギリスの歴史と文学（1）OE・ME、17世紀</p> <p>第3週 イギリスの歴史と文学（2）18世紀 + イギリスの宗教</p> <p>第4週 イギリスの歴史と文学（3）19世紀・20世紀</p> <p>第5週 イギリスの文学リーディング</p> <p>第6週 イギリスの音楽</p> <p>第7週 イギリスの音楽特論 ザ・ビートルズ</p> <p>第8週 アメリカとは何か + アメリカの地理と交通</p> <p>第9週 アメリカの歴史と文学 19世紀まで</p> <p>第10週 アメリカの歴史と文学 20世紀以降</p> <p>第11週 アメリカの文学リーディング(1)</p> <p>第12週 アメリカの文学リーディング(2)</p> <p>第13週 アメリカの音楽</p> <p>第14週 アメリカの音楽特論 ポプ・ディラン</p> <p>第15週 まとめ、授業アンケート</p> <p>期末試験有り</p> <p>以上は計画のおおまかな概要です。初回の授業（オリエンテーション）において、詳細な計画を配布します。</p>						
成績評価の方法	試験70%、5分間スピーチまたはレポート30%（文学・文化事項に関してプレゼン）で成績評価をします（受講生の数によって調整します）。						
成績評価の基準	評価ポイントは、基礎知識を身につけたかどうか、および初歩的思索研究力（問題を発見し思索し分析し考えをまとめられるようになること）を身につけたかどうかです。その度合いに応じて、評価します。卓越した基礎知識を持ち卓越した分析ができれば90点以上、すぐれていれば80点以上、やすすぐれていれば79~70点、標準的なら69~60点になります。						
事前事後学習の内容	毎回、教科書の該当箇所などの教材を事前に読んで、授業後にそれを復習してください。						
履修上の注意	やむを得ぬ事情がない限り全授業に出席し、事前・事後学習を行ってください。						
質問、相談への対応	火曜日と木曜日の昼休みがオフィスアワーです（研究室は人文棟4階）。簡単な質問やアポは、授業前後またはsugino@shinshu-u.ac.jp までお願いします。						
教科書	下橋昌哉編『イギリス文化入門』（三修社、2010年）+ 杉野健太郎編『アメリカ文化入門』（三修社、2010年）+ プリント *初回から教科書を用いて簡単な説明を行いますので持参してください						
参考書	石塚久郎編『イギリス文学入門』（三修社、2014年）、諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』（三修社、2013年） その他は教科書の文献リストを主に参照してください。また、必要がある場合は、適宜指示します。						

登録コード	L2531700	開講年度	2019				
担当教員	杉野 健太郎			副担当			
授業科目	英語文学基幹演習						
英文授業名	Literature in English Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	人文204演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力 ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の基礎となったと言える1920年代のアメリカ社会を分析し価値判断できるようになる。 ・アメリカの社会を理解できるようになる。 ・英語のテキストを正確に読み、それに基づいて自らの意見を発信できるようになる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>You shall become capable of processing and receiving a multilayered foreign culture with precision. You shall become capable of understanding foreign culture correctly and of conveying your own understanding of it.</p> <p>In foreign studies, you will learn how able to precisely and closely read and receive foreign-language texts. The aim of this course is to allow you to work with literary texts in English, to analyze them to reach conclusions and to express them effectively in your presentation and writing.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. You shall become capable of working with English texts with precision. 2. You shall acquire basic research skills for narratives. 3. You shall become capable of expressing the results of your analysis effectively in presentation and writing. 						
授業の概要	<p>F. Scott Fitzgerald (1896-1940) is renowned for his iconic American canon novel, <i>The Great Gatsby</i> (1925). <i>The Great Gatsby</i> is ranked as the top American novel out of the Modern Library's 100 20th century's English language novels. His second novel, <i>Tender is the Night</i> is ranked 15th in this list, but sometimes evaluated the best among his oeuvre by some scholars. Roughly speaking, general readers prefer <i>The Great Gatsby</i> while academic readers prefer <i>Tender Is the Night</i>. In this course we will read <i>The Great Gatsby</i>.</p> <p>The primary course activity is to read precisely and analyze closely <i>The Great Gatsby</i>, arguably the greatest U. S. novel, and the related materials. We are to read through the novel and some articles throughout V and VI. Students must make presentations and discuss the materials in class, and are highly recommended to speak in English.</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Ch. 1-1 3. Ch. 1-2 4. Ch. 2-1 5. Ch. 2-2 6. Ch. 3-1 7. Ch. 3-2 8. Ch. 4-1 9. Ch. 4-2 10. Ch. 5-1 11. Ch. 5-2 12. Introduction 1 13. Introduction 2 14. Introduction 3 15. Introduction 4 <p>* During the first class, a more detailed course schedule will be decided and distributed.</p>						
成績評価の方法	<p>In-class activities 50%</p> <p>Exam 50%</p> <p>*Attending 10 times is the minimum required for a grade.</p>						
成績評価の基準	<p>Five criteria: i) precise and close reading of text, ii) selecting an appropriate topic within the text, iii) consistent argumentation according to the topic, iv) significant conclusion, v) pertinent and effective writing and presentation. Satisfying five or four of the five criteria: S, three: A, two: B, one: C, none: D.</p>						
事前事後学習の内容	<p>Students are required to read and consider the assigned part in advance, reviewing the previous part and the relevant materials.</p>						
履修上の注意	<p>Taking both Spring and Fall semester's courses is highly recommended.</p>						
質問、相談への対応	<p>If you have some questions, please come and ask me after class or at my office. Unmediated talk is desirable over text-messaging and email chats. Make an appointment to confirm our meeting.</p> <p>My office is located on the 4th floor of Faculty of Arts (Jinbun) Building. Office Hour: Tuesday and Thursday lunchtime [12:20-12:50] (other times possible by appointment). Email: sugino@shinshu-u.ac.jp</p>						
教科書	<p>F. Scott Fitzgerald. <i>The Great Gatsby</i> (the edition will be announced in the first lesson), plus materials to be distributed.</p>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・Leehan, Richard. <i>The Great Gatsby: The Limits of Wonder</i>. (1995) (リーハン『「偉大なギャツビー」を読む』伊豆大和訳、旺史社) ・Tredell, Nicolas. <i>Fitzgerald's The Great Gatsby</i>. <p>*Other references are listed up in the distributed materials and to be introduced in class.</p>						

※科目名が異なりますが、
「英語文学基幹演習Ⅶ」の内容になります。

登録コード	L2530900	開講年度	2019				
担当教員	杉野 健太郎	副担当					
授業科目	英語文学特論IX						
英文授業名	Literature in English IX						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文205演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1) 授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 ・◎世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】 ・◎日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】 <p>(2) 【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイルランドのある時代のダブリンの人々の文化を理解し、それを基に自らを省み発信できるようになるでしょう。 ・英語圏とりわけ、一時期のアイルランドの多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養を身に着けることができるようになるでしょう ・英語および日本語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができるようになるでしょう <p>(3) 【授業のねらい】</p> <p>In foreign studies, you will learn how to precisely and closely read and process foreign-language texts. The aim of this course is to allow you to work with literary texts in English, to analyze them to reach conclusions, and to express them effectively in your presentation and writing.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. You shall become capable of working with relatively reader-friendly texts with precision. 2. You shall acquire basic research skills for English literature and culture. 3. You shall become capable of expressing the results of your analysis effectively in presentation and writing. 						
授業の概要	<p>James Joyce (1882-1941), an Irish-born novelist who lived most of his adult life outside Ireland, is one of the most prominent 20th century authors in the world. He contributed to modernist avant-garde movement through his representation of modern lives by innovative literary techniques such as stream of consciousness.</p> <p>Dubliners is a collection of his early fifteen short stories published in 1914. They present a naturalistic depiction of Irish middle class life in Dublin, the Irish capital, in the early years of the 20th century.</p> <p>Dubliners will be taken up in this course. The primary course activity is to analyze precisely some of the short stories, along with the instructor's explications and class discussion. Students must read and discuss the material in class and are highly recommended to speak in English. Incidentally, this course is recommended for every student because the English itself is not very tough.</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. The Sisters 1 3. The Sisters 2 4. An Encounter 1 5. An Encounter 2 6. Araby 1 7. Araby 2 8. Eveline 1 9. Eveline 2 10. Midterm exam 11. After the Race 1 12. After the Race 2 13. The Dead 1 14. The Dead 2 15. Final exam <p>* During the first class, a more detailed course schedule will be decided on and distributed.</p>						
成績評価の方法	<p>In-class activities 50%</p> <p>Exams 50%</p> <p>*Attending 10 times is the minimum required for a grade.</p>						
成績評価の基準	<p>Five criteria i) precise and close reading of text, ii) selecting an appropriate topic within the text, iii) consistent argumentation according to the topic, iv) significant conclusion, v) pertinent and effective writing or presentation. Satisfying five or four of the five criteria S, three A, two B, one C, none D.</p>						
事前事後学習の内容	<p>Students are required to read the assigned part in advance, reviewing the previous part and the relevant materials. Pre-class assignments are given almost every time.</p>						
履修上の注意	<p>NA Any student except freshers can take this course.</p>						
質問、相談への対応	<p>If you have some questions, please come and ask me after class or at my office. Direct communication is best done over text-messaging and email chats. Making an appointment to confirm our meeting is recommended.</p> <p>My office is located on the 4th floor of the Faculty of Arts (Jinbun) Building. Office Hour Tuesday and Thursday lunchtime [12 20 12 50] (other times possible by appointment) Email sugino@shinshu-u.ac.jp</p>						
教科書	<p>Joyce, James. Dubliners (Oxford World's Classics), plus materials to be distributed.</p>						
参考書	<p>James Joyce A Literary Companion. McFarland Publishing. 2018. *Other references are listed up in the textbook and to be introduced in class.</p>						

登録コード	L2830400	開講年度	2019				
担当教員	坂口 和寛			副担当			
授業科目	日本語教育学特論						
英文授業名	Pedagogy of Japanese as a Foreign Language: Specialized Study						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文第1講義室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素ノ : 全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習者のアウトプットについて、表現意図を正確に理解したうえで、誤用訂正を含めた評価やコメントを伝えるための日本語指導技術とその活用法を考える。 ・日本語学習者の日本語能力を推察し、学習者が正確に理解できるように適切にフィードバックを行うための日本語表現技術を理解する。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>日本語教育において外国人学習者に対し日本語教師が行う、言語的なフィードバックの特徴とその方法を学ぶ。そして、学習者の日本語使用に見られる問題、誤用を生み出す背景、明示的な説明の方法を専門的に理解する。これにより、異文化間コミュニケーション場面においてフィードバックの考え方を援用し、日本語支援ができるようになることを目指す。</p> <p>この授業では、母語話者として無意識的な日本語知識を見つめ直す思索力と、抽象的な言語知識・言語能力を自身の言葉で明確に表現するコミュニケーションリテラシーを養う。授業目標については、各回の授業内で行う質疑応答や協働作業を通じて達成する。</p>						
授業の概要	本授業では、外国人日本語学習者の日本語産出に対する日本語教師のフィードバックについての種類と特徴、留意点を学ぶ。否定的フィードバックは誤用訂正を中心に扱い、誤用に潜む規則性と中間言語、修正すべき箇所の指摘と説明の方法、文法説明を具体的にみる。そして、明示的でわかりやすい説明や、学習者の日本語理解と使用を促す教師の指導技術を学ぶ。						
授業計画	<p>第1回：履修ガイダンス / 第二言語としての日本語教育と外国人学習者</p> <p>第2回：第二言語教育における教師と学習者の役割</p> <p>第3回：第二言語教育における教師と学習者のインターアクション</p> <p>第4回：日本語指導とフィードバック1（フィードバックの基本的特徴）</p> <p>第5回：日本語指導とフィードバック2（フィードバックの形式と種類）</p> <p>第6回：導入・説明活動におけるフィードバック</p> <p>第7回：練習活動におけるフィードバック</p> <p>第8回：肯定的フィードバックの特徴と方法</p> <p>第9回：肯定的フィードバックを行う際の留意点</p> <p>第10回：否定的フィードバックの特徴と方法</p> <p>第11回：否定的フィードバックを行う際の留意点</p> <p>第12回：否定的フィードバックと誤用訂正</p> <p>第13回：誤用訂正を支える教師の日本語分析と日本語知識</p> <p>第14回：日本語指導におけるフィードバックの効果的な利用</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>						
成績評価の方法	以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末の試験（40％）						
成績評価の基準	試験問題に対して、授業で学んだ基本的概念を基に正確に説明できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切な具体例を挙げられるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念と具体例を統合的に用いて説明できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で扱った諸問題が複合的に見られる課題について、具体例を挙げつつ、重要な基本的概念を統合的に用いて応用的かつ発展的に論じられる場合は水準を「卓越している」と判定する。						
事前事後学習の内容	各回の授業内で取り上げたテーマやトピックに関して、発展的に考えたり調べたりすることを求める。また、次回授業で扱う予定の問題を授業内で提示し、自身の経験や意見をまとめることを求める。以上の課題は、授業を行うなかで意見発表や討論に用いるため、印刷して授業に臨むこと（授業終了時に提出）。						
履修上の注意	講義形式の授業だが、受講学生に意見を求める場合がある。誤りかどうかを気にせず自分なりの考えを述べるなど、授業へ積極的に参加してほしい。						
質問、相談への対応	火曜日の午後12時から午後1時までをオフィスアワーとする。研究室の場所は、人文学部棟の3階。						
教科書	使用しない。授業の中でレジュメや資料などを配布する。						
参考書	『フィードバック研究への招待 第二言語習得とフィードバック』（大関浩美編、くろしお出版、2015年）そのほか、授業の中で適宜、紹介する。						

登録コード	L2830700	開講年度	2022				
担当教員	坂口 和寛		副担当				
授業科目	日本語教育学基幹演習						
授業タイトル	コミュニケーション能力を重視した日本語教育						
単位数	2		講義期間	前期	曜日・時限	金曜, 3時限	
講義室	人文第5講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができる受容力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・コミュニケーション能力の育成を目指す日本語教育とその教材について理解を深め、CEFR研究などの知見から、第二言語としての日本語やその教育、日本語学習者に対して多角的に分析し、理解できる。</p> <p>(3)【授業のねらい】 コミュニケーション能力の修得・向上を目的とする日本語教育について、複言語主義・複文化主義に基づくCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の観点から学ぶ。また、CEFRに依拠した日本語教科書を分析し、学習項目の特徴を整理し、言語知識や四技能と関係づけて専門的に理解する。そして、日本語教育の実践・研究の基礎となる専門的な日本語知識を身につける。本授業を通じ、外国人学習者の日本語能力を多面的・複眼的に観察し分析できること、そして日本語教材を正確かつ批判的に読み解けることを、研究リテラシーとともに向上させるていく。授業目標については、各回の授業内で行う発表や質疑応答、協働作業を通じて達成する。</p>						
授業の概要	本授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の理念や目標、歴史的背景、内容的特徴を理解し、それらをふまえて日本語学習者へのコミュニケーション教育のあり方を学ぶ。また、CEFRに準拠した日本語教科書について、背後にある目的や意図を受講者同士で分析する演習を行う。それにより、複言語主義・複文化主義に基づきコミュニケーション能力を重視した日本語教育への理解を深め、外国人への日本語支援や研究論文読解などに必要な能力と専門知識を身につける。						
授業計画	<p>授業では、指定のテキストについて受講生が分担して解説し、討論を通じてCEFRとその日本語教育への活用について学んでいく。それをふまえてCEFR準拠の日本語教科書を分析し、行動中心のコミュニケーション教育の特徴を理解する。日本語教科書は各回の授業で複数の課を取り上げるが、およそ以下に挙げるようなテーマに沿って授業を進める。</p> <p>第1回：履修ガイダンス/コミュニケーション教育と日本語教育 第2回：CEFRの基本的特徴1：多言語主義・多文化主義 第3回：CEFRの基本的特徴2：歴史的背景・言語政策 第4回：CEFRの基本的特徴3：言語観・言語能力観 第5回：CEFRの基本的特徴4：学習者観 第6回：CEFRを活用した日本語教育1：教師の役割 第7回：CEFRを活用した日本語教育2：学習者の役割 第8回：CEFRを活用した日本語教育3：教室活動 第9回：CEFRに基づく日本語教科書の分析1（内容と構成） 第10回：CEFRに基づく日本語教科書の分析2（CEFRとの関連性） 第11回：CEFRに基づく日本語教科書の分析3（教科書の利用方法） 第12回：CEFRに基づく日本語教科書の分析4（四技能の扱い方） 第13回：CEFRに基づく日本語教科書の分析5（言語的側面の特徴） 第14回：文法シラバスに基づく日本語教科書の違い 第15回：まとめ・授業のふりかえり（授業アンケート） 定期試験（レポート）</p> <p>なお、本授業の計画については、受講する学生の理解度や研究内容により、教科書の扱い方や各回の授業計画を変更することがあり得る。</p>						
成績評価の方法	以下の2点とその割合によって、先に挙げた本授業の目標の達成度を測り、評価する。 授業15週の授業への参加度（50%）・授業15週終了後の最終の定期試験（50%） 学期末に行う定期試験（レポート）では、15回の授業で取り上げた事象について論述を求めます。						
成績評価の基準	授業で行う発表や討議に対して積極的かつ能動的に準備し参加できることに加え、レポート課題に対して適切にテーマを設定し、授業で学んだ研究手法や専門的概念をふまえて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切な具体例やデータを挙げつつ専門的に論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念とデータを統合的に用いて応用的に論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、データを用いつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。						
事前事後学習の内容	教科書については各回の授業で扱う範囲を事前に精読し、テーマに関する事ごらるを調べるほか、疑問点や批判的コメントを準備して授業に臨むこと。また発表担当にあたっては、教科書の担当箇所の概要をわかりやすく簡潔に説明できるよう資料作成などを行うこと。以上の課題は、授業での発表や討論に用いるため印刷して持参し、授業終了時に提出する。教員によって添削された課題については、さらに発展的に調べてまとめることを求める。						
履修上の注意	<p>1)授業の運営方法や報告分担などは学生の履修状況により柔軟に対応する。</p> <p>2)受講生は、教科書の精読や補足的な調べなどを十分に行い、授業での報告に臨む必要がある。</p> <p>3)日本語教育学に関するテーマで卒業研究を行う学生の受講が望ましい。</p> <p>4)意見の提示や交換を積極的に行うなど、積極的に授業に参加してほしい。</p>						
質問、相談への対応	火曜日の午後12時から午後1時までをオフィスアワーとする。研究室の場所は、人文学部棟の3階。						
教科書	『日本語教師のためのCEFR』（奥村三菜子ほか、くろしお出版、2016年） 『まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい』（国際交流基金、三修社、2013年） また、授業運営に際して必要となる日本語教科書も必要に応じて提示し、授業で用いる。						
参考書	『まるごと 日本のことばと文化 初級1 A2 りかい』（国際交流基金、三修社、2014年） 『みんなの日本語 初級（第2版）本冊』（スリーエーネットワーク） 『みんなの日本語 初級（第2版）本冊』（スリーエーネットワーク） 必要に応じて、授業の中で適宜、紹介する。また、授業の中でレジュメや資料などを配布する。						

登録コード	L2831000	開講年度	2019				
担当教員	坂口 和寛			副担当			
授業科目	日本語教育学基幹演習						
英文授業名	Pedagogy of Japanese as a Foreign Language: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文201演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二言語の教育・学習を対象とした研究の概念と手法を学ぶことを通じ、研究活動でのコミュニケーションや論理展開とその要素を学び、自身のコミュニケーション能力を客観的に観察でき高められる。 ・第二言語教育・学習に関する研究の基礎となる理論と、研究実施に関する問題について、テキストの内容や授業での討議をふまえて、自分なりに解決策を講じられる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>第二言語の教育および学習に関する研究のタイプと手法に関する基本的な事項を学び、日本語教育学研究を批判的に解釈し検討できる力を養う。また、外国人への日本語教育や日本語習得・学習をテーマとした研究に取り組む際に不可欠な専門知識を身につけ、自身の問題意識に基づいて研究レポートを作成できるようになることを目指す。本授業を通じ、日本語教育に関わる事象を観察し分析できること、そして文献を正確かつ批判的に読み解けることを、研究リテラシーとともに向上させていく。授業目標については、各回の授業内で行う発表や質疑応答、協働作業を通じて達成する。</p>						
授業の概要	本授業では外国語（第二言語）教育研究の方法を取り上げた教科書を購読し、日本語教育学研究の全体的手続きを学ぶ。具体的には研究手法とその種類、研究計画作成、研究課題設定、データ収集方法、研究を進める際の留意点などを理解する。また、研究論文読解や卒業研究遂行に必要な日本語教育学の基本概念を学び、日本語教育学研究を支える専門知識を身につける。						
授業計画	<p>第1回：履修ガイダンス / 日本語教育学研究とは</p> <p>第2回：第二言語教育研究・第二言語学習研究の性質と種類1（探索的な研究）</p> <p>第3回：第二言語教育研究・第二言語学習研究の性質と種類2（演繹的な研究）</p> <p>第4回：第二言語教育研究を構成する基本要素</p> <p>第5回：第二言語教育研究における研究課題の設定</p> <p>第6回：文献の調査・研究に関する方法</p> <p>第7回：研究計画の作成</p> <p>第8回：第二言語教育研究に関わる信頼性と妥当性</p> <p>第9回：第二言語教育研究の研究デザイン1（質的研究）</p> <p>第10回：第二言語教育研究の研究デザイン2（実験研究）</p> <p>第11回：第二言語教育研究におけるデータの種類の</p> <p>第12回：第二言語教育研究におけるデータの収集方法1（面接・観察）</p> <p>第13回：第二言語教育研究におけるデータの収集方法2（質問紙・テスト）</p> <p>第14回：第二言語教育研究におけるデータ分析の方法</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験（レポート）</p>						
成績評価の方法	以下の2点とその割合によって評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％）						
成績評価の基準	授業で行う発表や討議に対して積極的かつ能動的に準備し参加できることに加え、レポート課題に対して適切にテーマを設定し、授業で学んだ研究手法や専門的概念をふまえて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切なデータを挙げつつ論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念とデータを統合的に用いて論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、データを用いつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。						
事前事後学習の内容	教科書については各回の授業で扱う範囲を事前に精読し、テーマに関する事柄を調べるほか、疑問点や批判的コメントを準備して授業に臨むこと。また発表担当にあたっては、教科書の担当箇所の概要をわかりやすく簡潔に説明できるよう資料作成などを行うこと。以上の課題は、授業での発表や討論に用いるため印刷して持参し、授業終了時に提出する。教員によって添削された課題については、さらに発展的に調べてまとめることを求める。						
履修上の注意	<p>1) 授業の運営方法や報告分担などは学生の履修状況により柔軟に対応する。</p> <p>2) 受講学生は、教科書の精読や補足的な下調べなどを十分に行い、授業での報告に臨む必要がある。</p> <p>3) 日本語教育学に関するテーマで卒業研究を行う学生の受講が望ましい。</p> <p>4) 意見の提示や交換を積極的に行うなど、積極的に授業に参加してほしい。</p>						
質問、相談への対応	火曜日の午後12時から午後1時までをオフィスアワーとする。研究室の場所は、人文学部棟の3階。						
教科書	『外国語教育リサーチマニュアル』（ハーバート・W セリガー、イラーナ・ショハミー；大修館書店；2001年） 必要に応じて、教科書や参考書を追加する。また、授業の中でレジュメや資料などを配布する。						
参考書	授業の中で適宜、紹介する。						

登録コード	J2108200	開講年度	2020				
授業科目	経済史				担当教員	吉村 信之	
英文授業名	Economic History				副担当		
単位数	4	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 4時限 水曜, 2時限	対象学年	経済学部2年生以上(16カリ)
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」 ・経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 【授業の達成目標】 ・歴史分析の方法を踏まえて、資本主義経済の歴史と現状について自分なりに説明することができる。</p> <p>【授業のねらい】 資本主義社会の歴史的变化について理解を深めることをねらいとします。</p> <p>人間は、自分自身の歴史を創ります。しかし、思うままに出来るわけではありません。自分で選んだ環境のもとではなく、そこにある、与えられた、過去から受け継いだ環境のもとでそれを創るからです。死せる全ての諸世代が創りあげてきた様々な条件や制度・伝統が、いま生きている人間の行動と思考を縛り付けています。そして、同じく現代の経済も、過去から受け継いできた経済の発展の上にあります。今日、われわれがそのもとで暮らしている資本主義経済を正確に理解するためには、何よりも過去の経済をある程度知っておく必要があります。</p> <p>経済史は、例えば文学史や政治史と同じ様な意味で、「歴史」であるわけではありません。「衣食足りて礼節を知る」という言葉もある通り、人は、広い意味での経済活動(物を作り、消費し、生命を維持すること)を充足させてはじめて、文学や哲学を創りだし、物質的利益に応じて政治活動や戦争を繰り広げてきました。社会の基礎には経済があり、その上にわれわれ人間の、様々な文化や文明の歴史が開いてきたのです。</p> <p>この講義では、そうした人間の生命活動の基礎となる経済活動の歴史を、とりわけ市場経済が大規模に勃興してきた16世紀の「大航海時代」から、第1次世界大戦以降の「大衆社会」の出現に至るまでの過程に重点を置きつつ、概観していきたいと思います。</p>							
<p>(2)授業の概要 主に資本主義経済の勃興と発展を概観します。 大きな枠組みとしては、1)資本主義社会以前の諸社会、2)16世紀の「大航海時代」からの資本主義経済の勃興、3)19世紀における資本主義経済の確立、4)19世紀後半から第1次世界大戦までの資本主義経済の変容、5)第1次世界大戦以降の現代資本主義、という歴史的な流れに沿って講義します(なお、5)の第一次世界大戦以降は、「経済史」という講義の内容上、簡潔なものになります)。 講義では教材として配布資料・教科書を中心に、スライド等も併用します。</p>							
<p>(3)授業計画 変更の余地はありますが、講義の計画は以下の通りです。</p> <p>第1回 序論 1. 課題と方法 第2回 序論 2. 資本主義以前の諸社会 第3回 資本主義社会の形成 「重商主義」の時代: パクス・ブリタニカの形成期 / ヨーロッパ世界の拡大と商品経済の興隆 第4回 商人資本としてのイギリス羊毛工業 第5回 「重商主義」の経済政策 第6回 資本主義社会の確立 「自由主義」の時代: パクス・ブリタニカの確立期 / 産業革命と機械制大工業の確立 第7回 イギリス産業革命と国際分業 第8回 自由主義の経済政策 第9回 周期的景気循環と自由放任主義 第10回 景気循環の変容 第11回 1. 資本主義社会の爛熟 「帝国主義」の時代: パクス・ブリタニカの爛熟期 / 1A. イギリス / 景気循環の変容と「大不況」(1873~96) 第12回 1A 産業構造と金融市場の変質 第13回 1A 帝国主義政策: 社会政策・通商政策の転換 第14回 1A 「大不況」からの回復と金融資本の確立 第15回 1A 帝国主義の時代の景気循環と経済政策 (= 「帝国主義」政策) 金融資本の展開 第16回 1B. ドイツ / 「大不況」下の発展 第17回 1B ドイツ資本主義の特質 第18回 1B 「大不況」からの回復と金融資本の成立 第19回 1B 景気循環と金融資本 第20回 1B 経済政策 第21回 1C. アメリカ / 南北戦争と「大不況」期 第22回 1C 金融資本の形成 第23回 1C 金融資本の確立 第24回 1C 景気循環と対外政策 第25回 2. 世界システム / 1. 国際競争 / 2. 多角決済機構 / 3. 帝国主義戦争 第26回 現代資本主義(1): パクス・アメリカナへの移行期 / 1. 両大戦間期の世界経済 現代資本主義の胎動 / 第一次世界大戦の諸結果 第27回 1 アメリカの繁栄と世界経済の相対的安定 / 世界大恐慌の発生と深化 第28回 現代資本主義(2): パクス・アメリカナの確立期 / 2. 第二次世界大戦後の世界経済 / 戦後体制の形成 第29回 2 1970年代以降の戦後蓄積体制の変質: 新自由主義的局面への転換 パクス・アメリカナの変質 第30回 2 グローバル化の進展と限界 / 「経済史」の意義 期末試験</p>							
<p>(4)成績評価の方法 小テスト(20%) + 期末試験(80%) 小テストの予告は講義中に行います。</p>							
<p>(5)成績評価の基準 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。</p>							
<p>(6)事前事後学習の内容 毎回復習をして講義に臨んでください。小テストは講義の一環です。講義の理解のためにも必ず受けてください。</p>							
<p>(7)履修上の注意 「社会経済学」を既修ないし履修予定であることが望ましい。</p>							
<p>(8)質問、相談への対応 講義後または研究室で受け付けます。</p>							
<p>【教科書】 ・SGCIME編『現代経済の解説 グローバル資本主義と日本経済 第3版』ISBN-10: 4275020774, ISBN-13: 978-4275020772, 御茶の水書房, 2017年, 2750円 ・毎回、詳細な講義資料を配布します。</p> <p>【参考書】 ・宇野弘蔵『経済政策論 改訂版』ISBN-10: 4335450060, ISBN-13: 978-4335450068, 弘文堂, 1971年, 2500円 + 税 ・その他、講義中に指示します。</p>							

登録コード	J2206200	開講年度	2021				
授業科目	会社法					担当教員	寺前 慎太郎
英文授業名	Company Law					副担当	
単位数	4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜, 4 時限 金曜, 5 時限	対象学年	(16カリ対象科目) 経:3年/法:2年
講義室	経法第2講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」 ・経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 ・法学の専門領域の基礎能力として、リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な法学体系の基礎専門知識を身につける。 【授業の達成目標】 ・会社法や金融商品取引法の基礎を身につけ、会社の経営と法ルールの関わりを理解できるようになる。 ・会社法や金融商品取引法の基本的な発想を理解し、新聞などで報道されている会社経営に関するニュースを新しい視点から見ることや、演習などで行う議論の足がかりを築くことができるようになる。 【授業のねらい】 会社法は、経営者、株主、債権者といった会社の利害関係者間で生じる利害対立の調整を規律する法律である。本講義のねらいは、このような会社法の性質を個別具体的な法ルールの説明を通じて理解してもらうことにある。</p> <p>(2)授業の概要 本講義では、わが国の会社法のうち、総則、設立、会社の経営機構、計算、組織再編、持分会社に関する法ルールを解説する。条文や判例の基礎的な内容を中心に説明することを予定しているが、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込み、受講生が会社法に関する具体的なイメージを持てるよう心掛ける。 なお、会社経営を規律する法律は、会社法だけに限られない。そのため、必要に応じて、商法（第1編）や金融商品取引法の内容にも及ぼす。会社の資金調達に関する会社法や金融商品取引法の法ルールは、「会社法」で取り上げる。</p> <p>(3)授業計画 第1回 講義をはじめににあたって 第2回 会社法総論 第3回 総則（1）：会社の商号 第4回 総則（2）：使用人・代理人、商業登記 第5回 株式会社の経営機構（1）：総論、株主の地位（株式の種類・単位も含む） 第6回 株式会社の経営機構（2）：株主総会 第7回 株式会社の経営機構（3）：株主総会 第8回 株式会社の経営機構（4）：取締役・取締役会 第9回 株式会社の経営機構（5）：監査役・監査役会、会計監査人、会計参与 第10回 株式会社の経営機構（6）：指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社 第11回 株式会社の経営機構（7）：役員等の義務と責任（総論、役員等の義務） 第12回 株式会社の経営機構（8）：役員等の義務と責任（会社に対する責任） 第13回 株式会社の経営機構（9）：役員等の義務と責任（株主代表訴訟、違法行為の差止め、第三者に対する責任） 第14回 計算（1）：総論、計算書類等 第15回 計算（2）：開示制度 金融商品取引法上の開示制度も含む 第16回 計算（3）：資本制度、剰余金の配当 第17回 計算（4）：自己株式、欠損の処理 第18回 計算（5）：債権者保護のためのルール 第19回 企業買収・組織再編（1）：総論、公開買付制度 第20回 企業買収・組織再編（2）：公開買付制度、キャッシュアウト 第21回 企業買収・組織再編（3）：キャッシュアウト、事業譲渡 第22回 企業買収・組織再編（4）：組織再編（意義・効果） 第23回 企業買収・組織再編（6）：組織再編（手続） 第24回 企業買収・組織再編（7）：組織再編（反対株主の株式買取請求権） 第25回 企業買収・組織再編（8）：組織再編（組織再編の差止め・無効） 第26回 企業買収・組織再編（9）：組織再編（債権者保護のためのルール 会社分割の場合を中心に） 第27回 設立（1）：総論、設立の手続 第28回 設立（2）：設立中の法律関係、設立に関する責任、会社の不成立・設立無効の訴え 第29回 定款変更、解散・清算 第30回 持分会社 期末試験、授業評価アンケート</p> <p>(4)成績評価の方法 小テスト（30％）と期末試験（70％）によって評価する。小テストは、eALPSを通じて2回行う予定である。試験形式などについては、開講後に指示する。</p> <p>(5)成績評価の基準 講義で説明した法ルールの基本的な理解を問う問題が解ければ、「水準にある」。それらの理解が十分であれば解ける程度の問題が解ければ、「やや上にある」。基本的な理解を少し応用することが求められる問題が解ければ、「かなり上にある」。さらなる応用が求められる問題が解ければ、「卓越している」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 開講後、教科書の該当ページなどを記したより詳細な講義計画も伝えるので、それを目安に教科書や参考書で予習することを推奨する。</p> <p>(7)履修上の注意 ・受講者間の私語、講義中の入退出・食事（飲み物は可）は、原則として禁止する。 ・講義中、頻繁に条文を参照することになるので、毎回最新版の六法を持参すること。パソコンやタブレットなどで条文を参照しても構わないが、期末試験への持ち込みは、冊子体の六法しか認めない。 ・民法（特に財産法）や民事訴訟法などの隣接法分野を扱う科目をすでに履修しているか、同時に履修することが好ましい。 ・新型コロナウイルス感染症の流行状況に鑑み、必要に応じて、講義形式や成績評価の方法を一部変更することがあるので、注意すること。</p> <p>(8)質問、相談への対応 講義終了後の時間に受け付けるほか、メールや独自のアンケート・フォームで随時対応する。</p> <p>【教科書】 伊藤靖史ほか『会社法〔第5版〕』（有斐閣、2021年3月刊行予定） 【参考書】 開講後に指示する。</p>							

登録コード	J3114300	開講年度	2021			担当教員	増原 宏明
授業科目	医療制度論					副担当	
英文授業名	Health Care System					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 1時限	対象学年	(16カリ対象科目) 経:3年/法:3年
講義室	経法第1講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」 ・経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 ・専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。 【授業の達成目標】 ・医療制度の現代的問題を全員が間違いなく説明できるようになる。 ・医療制度を経済学的思考に基づき、説明できるようになる。 ・医療制度改革の狙いを論理的に批判できるようになる。 【授業のねらい】 社会にとって望ましく適切な医療を提供するためには、適切な医療制度の設計が必要となります。この講義では、社会保険の仕組みを理解した上で、わが国の医療保険制度、後期高齢者医療制度、介護保険制度などを理解します。また医療は供給側にも様々な規制が存在しますので、次に病院に課されている様々な規制や制度を理解します。この授業を受けることで、わが国や諸外国の「医療制度」を把握した上で、現在の制度の問題点を明確にし、第三者に説明できるようになります。</p> <p>(2)授業の概要 医療制度には、主に需要者側（患者側）に向けられるものと、供給者側（医療機関側）に向けられるものがあります。前半部分では、主に患者側に課される医療制度、医療保険制度を把握します。また同時に後期高齢者制度や介護保険にも触れ、医療保険と介護保険を構造的に理解します。後半部分では、主に供給者側に課される医療制度を把握します。診療所と病院の違いから始め、さまざまな病院の分類、診療報酬制度やDPC/PDPSなども理解します。最後に世界の医療制度を把握して、今後の医療制度改革を考察します。</p> <p>(3)授業計画 第1回 国民医療費の動向と地域差 第2回 社会保障と社会保険 第3回 医療保険制度：被用者保険と地域保険 第4回 医療保険制度：一部負担と高額療養費制度 第5回 後期高齢者医療制度 第6回 介護保険制度：要介護認定と居宅サービス、小テスト 第7回 介護保険制度：施設サービスと地域密着型サービス 第8回 医療保険制度の変遷 第9回 病院と病院機能 第10回 病院と医療スタッフ 第11回 診療報酬制度と薬価 第12回 DPC/PDPSと病院会計 第13回 医療計画と地域医療構想、小テスト 第14回 医療・介護制度の国際比較 第15回 医療保険制度改革、授業アンケート 期末試験</p> <p>(4)成績評価の方法 【授業の達成目標】の1番目に記載された達成度を測るために、基礎的な知識の定着を確認する小テストを2回行う（各25%×2=50%）。続いて、【授業の達成目標】の2番目と3番目の達成度を測るため、基礎的な知識を用いて、医療制度に関する問題をすじみち立てて解決する方法を問う期末試験（50%）で評価を行う。</p> <p>(5)成績評価の基準 小テストと同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、難しい応用問題が解ければ「卓越している」</p> <p>(6)事前事後学習の内容 予習・復習用の授業レジュメを、eALPSにPDFファイルでアップする。各自で印刷して持参するか、ノートパソコンを持参すること。レジュメは穴埋め式となっているので、予習として1.5時間かけて穴埋め以外の項目について目を通すこと。講義後には穴埋めされたレジュメを復習し、授業で説明した概念を自らの手で再度まとめるとともに、時間の関係で説明を省略した部分を自ら調べること（1.5時間）。</p> <p>(7)履修上の注意 小テストを受験しないと、単位取得はきわめて厳しくなります。授業に出席して、きちんとノートをとってください。</p> <p>(8)質問、相談への対応 別の質問は、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーが無理な場合には、事前にメールでアポイントメントを取り、来室してください。</p>							
【教科書】 指定しない。 【参考書】 細谷圭・増原宏明・林行成、医療経済学15講、978-4883842841、新世社、2018年、2,592円。							

登録コード	J3116300	開講年度	2020				
授業科目	社会保障政策論				担当教員	井上 信宏	
英文授業名	Policy Analyses on Social Security				副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜, 1時限	対象学年	経法学部3年生以上(16カリ)
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」 ・専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。 【授業の達成目標】 ・社会保障の専門知識を身につけた上で、社会保障に関わる現実的な課題群を理解し、その課題解決に向けた政策提言を考えることができるようになる。 【授業のねらい】 社会保障は、私たちが社会生活を営む上で直面する、自分の力ではどうすることもできないさまざまな社会的リスクに備えるしくみである。このしくみは、医療、介護、年金、生活保護、子育て支援、地域福祉、雇用保障などいろいろな制度や施策からなり、それぞれが複雑なルールのもとに運用されているのでそれらを理解するだけで一苦労する。 社会保障政策論では、複雑な社会保障を次の視点で学ぶことになる。 それぞれの社会保障制度が対象とするリスクの社会的背景を学ぶことで、なぜそのリスクが社会保障の対象となったのかを知る。 社会保障制度のしくみと機能を学ぶことで、社会的リスクをどのように解決しようとしているのかを知る。 社会保障政策の政策効果を学ぶことで、残された課題と解決に向けた政策提言を考える。</p> <p>(2)授業の概要 この授業は7つのテーマで構成されている。 テーマ1 現代社会と社会保障 テーマ2 社会保障の制度体系 テーマ3 社会保障と財政 テーマ4 高齢期の所得保障と公的年金制度 テーマ4まで終了したところで中間試験(第9回)を授業時間中に実施する。 テーマ5 医療保険制度と医療改革 テーマ6 介護保険制度と地域包括ケア テーマ7 生活保護制度と貧困問題 試験期間に期末試験を実施する。</p> <p>この授業は、Scrapboxで提供される資料(レジュメ)、の中で紹介されるリーディング、教室で投影するスライド、それらを補足する板書をもとに講義形式で進めていく。原則として資料は配付しないので、毎回必ずノートパソコンを持参してScrapboxを開覧しながら受講すること。</p> <p>この授業では、通常授業の終了時に、Scrapboxを利用して、受講生の「リアクションコメント」を提出する。</p> <p>この授業では、学期中2回の「レポート」の提出が義務づけられている。</p> <p>(3)授業計画 第1回 現代社会と社会保障(1) 第2回 現代社会と社会保障(2) 第3回 社会保障の制度体系(1) 第4回 社会保障の制度体系(2) 第5回 社会保障と財政(1) 第6回 社会保障と財政(2) 第7回 高齢期の所得保障と公的年金制度(1) 第8回 高齢期の所得保障と公的年金制度(2) 第9回 中間試験(授業時間中に実施) 第10回 医療保険制度と医療改革(1) 第11回 医療保険制度と医療改革(2) 第12回 介護保険制度と地域包括ケア(1) 第13回 介護保険制度と地域包括ケア(2) 第14回 生活保護制度と貧困問題(1) 第15回 生活保護制度と貧困問題(2) 第16回 期末試験(試験期間中に実施)</p> <p>レポート提出時期 ・第1回レポート: 第7回授業日の18時〆切 ・第2回レポート: 第13回授業日の18時〆切</p> <p>(4)成績評価の方法 ・成績評価は、レポートの提出(全2回、各回15点、合計30点)、中間試験の成績(30点)、期末試験の成績(30点)、授業への参加(リアクションコメントの提出など、10点)で行なう。 ・中間試験と期末試験は、双方を受験しないと単位認定の対象とみなさない。</p> <p>(5)成績評価の基準 オビニオンシートは以下の基準で評価する。 【評価基準】 (i) 問題の設定が適切である。 (ii) その問題の背景が説明できている。 (iii) その問題にどのような課題があるのかが指摘できている。 (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に対応できている。 (v) i-ivを満たした上で自らの見解を提示できている、かつ、説得力のある記述できている。</p> <p>【評価基準と成績の対応】 i-v の5項目を満たしていれば「卓越している」 i-v の4項目が達成できていれば「かなり上にある」 i-v の3項目が達成できていれば「やや上にある」 i-v の2項目が達成できていれば「水準にある」</p> <p>中間試験・期末試験は以下の基準で評価する。 【評価基準と成績の対応】 (i) 授業で扱った基本概念を正しく理解していれば「水準にある」 (ii) (i)に加えて、配付した資料の論点を正しく理解していれば「やや上にある」 (iii) (ii)に加えて、応用問題を解くことができれば「かなり上にある」 (iv) (iii)に加えて、かなり複雑な応用問題を解くことができれば「卓越している」</p> <p>(6)事前事後学習の内容 ・この授業では、Scrapboxで提供される資料と授業中のメモを元に、各自で復習のためのノートを作成することが強く推奨される。Scrapboxへのアクセス権は学期中のみなので、授業の記録は学生の責任で行うことになる。 ・Scrapboxで紹介されるリーディング(PDF提供のもの、HPで紹介されているもの)は、授業の事前事後に読むことが義務づけられているものである。 ・全2回のレポートのテーマは、授業中に指示する。計画的に資料等を読みこみ、レポート作成にのぞむこと。 ・この授業は、授業時間を含めて全90時間以上の学習時間を確保することが必要となる授業である。</p> <p>(7)履修上の注意 ・授業ではインターネットに接続して「Scrapboxで提供される資料」を開覧しながら解説をする。そのため、毎回の授業ではノートパソコンかタブレットの持参が必須である(携帯電話での閲覧は推奨しない)。 ・受講においては「Scrapbox」への加入(無料)が必須となる。初回授業時に説明するので、パソコンを忘れずに持参すること。 ・20分以上の遅刻者には教室への入室を遠慮してもらうことがある。 ・毎回出席し、学生証による出席チェックを忘れず実施すること。出席は単位修得の必要条件のひとつである。欠席が多い学生(全体の3分の1以上)には成績評価の減点対象となる場合がある。 ・講義室の後5列については、学生の着席を認めない。受講生はそれより前の席に着席すること。</p> <p>(8)質問、相談への対応 ・講義終了後に、教室で受け付ける。 ・講義時間以外の質問は、メール(inoue[8]shinshu-u.ac.jp)で受け付ける。</p> <p>【教科書】 指定しない。 【参考書】 授業中に適宜紹介する。</p>							

登録コード	E9120200	開講年度	2021			担当教員	高橋 知音
授業科目	神経・生理心理学					副担当	
英文授業名	Neuropsychology					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限	対象学生	
講義室	教育N303講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 【授業の達成目標】 【授業のねらい】 人間の精神活動や行動の基盤となっている神経系の仕組みと働きを理解する。</p> <p>(2)授業の概要 受講生は教科書の指定範囲を読み、疑問点を事前にe-Alpsで提出する。 受講生の疑問に答えながら、教員が講義を行う。 授業の最初に前週の内容の確認小テストを行う。 神経心理学に関する最新の研究動向を知るために、自らテーマを設定し、データベースを用いて文献検索し、まとめた内容についてポスター発表を行う。</p> <p>(3)授業計画 第1週 ガイダンス 脳の全体像 第2週 脳を構成する細胞のしくみ (20-23, 28-29) 第3週 脳を構成する細胞のしくみ (24-27) 第4週 大脳のしくみと働き (30-35) 第5週 大脳のしくみと働き (36-41)、小脳のしくみと働き (46-51) 第6週 間脳のしくみと働き (42-45)、脳幹のしくみと働き (52-55) 第7週 神経系の分類 (66-67)、自律神経のしくみと働き (76-79)、運動を司る神経の構造 (80-81)、体性感覚を伝える神経の構造 (90-91) 第8週 特殊感覚を伝える神経の構造 (96-101) 第9週 確認テスト ポスター発表課題の説明 第10週 脳の病気がわかるおもな検査 (142-145) 第11週 記憶のしくみ (110-117) 第12週 学習のしくみ (118-123)、思考・判断・意志決定のメカニズム (128-129) 第13週 感情・思考のしくみ (124-127)、ストレス反応のしくみ (130-133) 第14週 睡眠のしくみ・コミュニケーションと脳機能 (134-140) 第15週 ポスター発表 (注)カッコ内は教科書の指定ページ</p> <p>(4)成績評価の方法 ・神経系のしくみや働きの理解のために問題意識を持って予習をしたかどうかを確認するための疑問点の提出10% ・神経系のしくみや働きの理解促進のため毎回の授業内容の理解度を確認する小テスト40% ・神経系のしくみや働きの理解を深めるための中間試験 30% ・神経系のしくみや働きの理解を深めるためのポスター発表 20% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</p> <p>(5)成績評価の基準 神経系のしくみや働きを理解するために問題意識を持って教科書を読み疑問点を表明でき、修得した知識を試験で示すことができ、最新の研究成果について情報を自ら集め英語で抄録を読んで理解でき、それを他の受講生にわかりやすく説明できたら「卓越している」、一部に不十分な点があるだけなら「かなり上にある」、いくつかの部分に不十分な点があれば「やや上にある」、いずれも不十分な点を残しつつすべての課題をこなしていれば「水準にある」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 毎回の授業で指定範囲となっている部分について問題意識を持って教科書を読み疑問点をe-Alpsに記入する。各回の授業で学んだ事項について翌週の授業で小テストを行うので、その準備を行う。第9週目に確認テストを行うので、神経系の仕組みや働きについて復習し理解を確認する。自分で設定したテーマについて学術データベースを用いて論文検索を行い、テーマに沿った論文の抄録を10件集める。内容を読んでより関連の深い5件にしぼる。5件の抄録をポスターにまとめ、他の受講生にわかりやすく説明する。</p> <p>(7)履修上の注意 試験や課題が多いので、病気等による欠席の際はできるかぎり事前に連絡をすること。連絡があれば、成績評価の上で不利にならないよう、考慮する。</p> <p>(8)質問、相談への対応及び連絡先 高橋知音研究室 (N317) オフィスアワー 木曜日13:00~13:16;14:30 Phone:026-238-4223 e-mail:tomonet@shinshu-u.ac.jp</p>							
<p>【教科書】 坂井健雄・久光正 「ぜんぶわかる脳の事典」 成美堂出版 【参考文献】 特になし</p>							

発行・編集／信州大学

総合窓口：学務部学務課教務グループ

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

TEL 0263-37-2870 FAX 0263-36-3044

URL : <https://www.shinshu-u.ac.jp/general/extension-courses/>

2022年2月発行